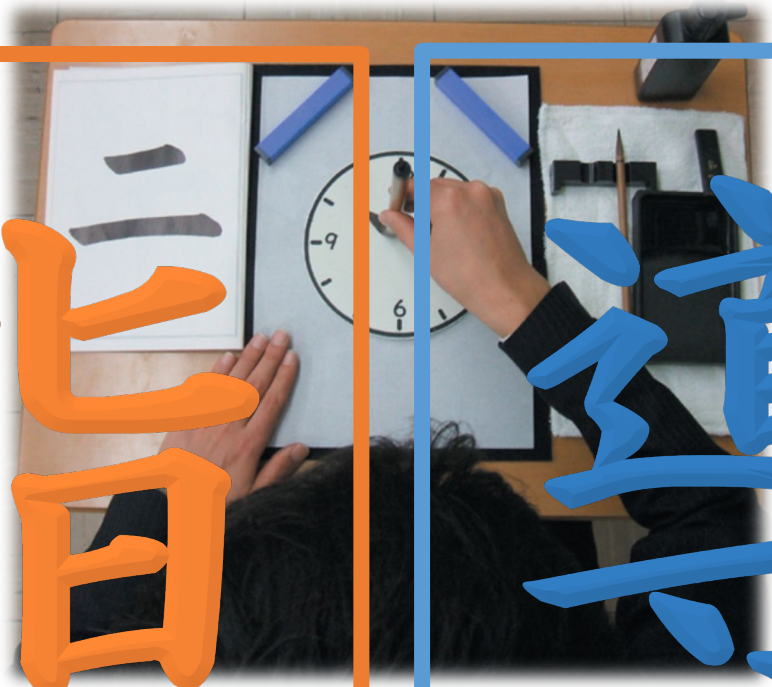
書写指導サポートブック

～横浜の書写指導～



横浜市教育センター

はじめに

学習指導要領では、各教科において、育成を目指す資質・能力として、〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕〔学びに向かう力・人間性等〕の三つの柱を挙げており、国語科もこれにならって構成されています。

「書写」が〔知識及び技能〕の「(3)我が国の言語文化に関する事項」に位置づけられたことで、書写の力は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった言語活動を支える基礎的な役割を求められているといえます。

一方、児童生徒の「書写力」を心配する声も聞かれます。鉛筆の持ち方、書く姿勢、字形等、指導の必要性を感じることもあるのではないでしょうか。そうした子どもたちを指導する先生方の日々の授業づくりにご活用いただけるよう、「明日の授業に困っている先生の助けになる」「『一単元の流れ』や『毛筆学習の過程の基本』を共通理解できる」「書写の学習が実生活に生き、身近に感じる」書写指導サポートブックを作成しました。

編集に当たっては、平成 20 年度3月に発行した「書写指導サポートブック～横浜のこれからの書写指導～（平成 19 年度　文部科学省「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」委託事業）」で示した内容を大切にしつつ、横浜市立小・中学校　国語教育研究会で蓄積された書写指導の実践事例等をもとに、できるだけ具体的に指導の手立てを提示しています。硬筆入門期の指導、毛筆学習に欠かせない用具の準備や後片付けの指導、児童生徒が主体的に課題解決に取り組むための指導の工夫、生活に生きる書写等、実際の書写指導に役立つ内容になっています。

この「書写指導サポートブック～横浜の書写指導～」が、横浜の子どもたちの「書写力」の育成に役立つことを願っています。どうぞ日々の指導にご活用ください。

令和５年３月

令和3・4年度　書写指導サポートブック改訂委員会

書写指導の鍵

横浜国立大学　青山　浩之

１　書写指導のいま

２０１７ 年改訂の学習指導要領では、国語科書写は「知識及び技能」に位置づけられました。「書くこと」はもちろん、「話すこと」や「聞くこと」といった言語活動を支える書写の内容がより明確に示されたことになります。小学校低学年では「点画の書き方」の内容が明記されました。正しく整えて書いたり、効率よく速く書いたりするためには筆記具の持ち方や手指の動作が重要です。学習指導要領解説では、水書用筆等を活用した指導が推奨され、早い時期からなめらかに書字できる技能を身に付けることが目指されています。また、中学校では「文字文化の豊かさに触れ」ることの内容が示されました。文字の成り立ちやその歴史、文字を書くことの目的や意義などを、書写学習を通して体験的に学ぶことが目指されます。さらに高等学校学習指導要領には、国語（「現代の国語」と「言語文化」）において「『書くこと』に関する指導については、中学校国語科の書写との関連を図り、効果的に文字を書く機会を設けること」と示されました。小・中・高校を通して書写を学ぶ意義が貫かれています。

２　実生活・実社会に生きる書写力向上の鍵

書写における基礎・基本とは、①姿勢・執筆法（持ち方）、②筆使い、③筆順、④字形、⑤配列・配置（字配り）といった学習の要素ともいえるものです。これらは、学習指導要領の指導事項に、各学年段階を踏まえて示されています。こうした学習要素に対して、ただ練習を繰り返せばよいという指導のとらえ方では、日常に生きる知識や技能は高まりません。指導に当たっては、「何のために身に付けるのか？」「誰のために身に付けるのか？」といった問いかけも必要です。姿勢や筆使い、筆順は、書きやすさにつながり、自分自身のためにとらえさえたい要素です。字形、配列は、読みやすさにつながり、相手と自分との関わりの中でとらえさせたい要素です。文字や言葉を書き表すことについて深く考え、相手や目的に応じて書く意識を高めながら、実生活や実社会における言語活動を支える書写力を育成していくことが大切です。それこそが「文字文化」を豊かに育む書写指導だと言えます。

３　書写の授業づくりの鍵

学習指導要領では、毛筆の指導は硬筆の書写力の基礎を養うよう指導するという考え方が示されています。毛筆を使用して「筆圧などに注意して書く」「穂先の動きと点画のつながりを意識して書く」といった事項には、書く過程を重視した毛筆の指導によって日常の硬筆書写力を向上させる観点が具体的に示されています。字形指導を重視するあまり、点画を書き進める技能の指導が疎かになっては、なめらかに筆記具を用いる書字動作も身に付きません。子どもたちの日常に生きる書写力をどう支えていくのかを十分考慮した授業改善や授業づくりが大切です。

また、知識や技能を習得する過程には、子どもにとって様々な課題が生じます。これらの課題を解決していくことこそ、豊かな学びの原点です。自分の書いた文字を、基準となる文字教材と比較し、自分で修正（自己批正）したり、他者と学び合ったりする書写の課題解決学習を通して、書写力ばかりでなく、思考力・判断力・表現力といった広い意味の学力を育成することにもつながります。

〔知識及び技能〕　＊小学校・中学校学習指導要領（平成 29 年告示）より抜粋

（3）我が国の言語文化に関する事項

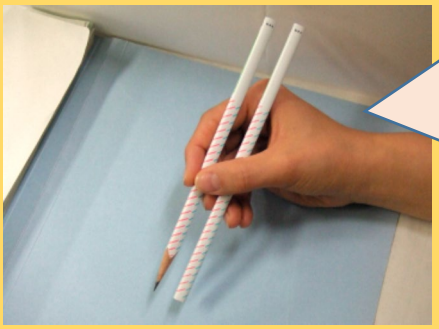
	（小）第 1 学年及び第 2 学年	（小）第3学年及び第4学年	（小）第5学年及び第6学年
	（3） 我が国の言語文化に関する次の指導事項を身に付けることができるよう指導する。		
書写	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 （ｲ）点画の書き方や文字の形に注意しながら，筆順に従って丁寧に書くこと。 （ｳ）点画相互の接し方や交わり方，長短や方向などに注意して，文字を正しく書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）文字の組立て方を理解し，形を整えて書くこと。 （ｲ）漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。 （ｳ）毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め，筆圧などに注意して書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）用紙全体との関係に注意して，文字の大きさや配列などを決めるとともに，書く速さを意識して書くこと。 （ｲ）毛筆を使用して，穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 （ｳ）目的に応じて使用する筆記具を選び，その特徴を生かして書くこと。
内容の取扱いについての配慮事項	カ 書写の指導については，第 2 の内容に定めるほか，次のとおり取り扱うこと。 （ｱ）文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに，書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。 （ｲ）硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。 （ｳ）毛筆を使用する書写の指導は第 3 学年以上の各学年で行い，各学年年間 30 単位時間程度を配当するとともに，毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。 （ｴ）第 1 学年及び第 2 学年の（3）のウの（ｲ）の指導については，適切に運筆する能力の向上につながるよう，指導を工夫すること。		

	（中）第 1 学年	（中）第2学年	（中）第3学年
	（3） 我が国の言語文化に関する次の指導事項を身に付けることができるよう指導する。		
書写	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）字形を整え，文字の大きさ，配列などについて理解して，楷書で書くこと。 （ｲ）漢字の行書の基礎的な書き方を理解して，身近な文字を行書で書くこと。	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して，読みやすく速く書くこと。 （ｲ）目的や必要に応じて，楷書又は行書を選んで書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 （ｱ）身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ，効果的に文字を書くこと。
内容の取扱いについての配慮事項	ウ 書写の指導については，第 2 の内容に定めるほか，次のとおり取り扱うこと。 （ｱ）文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに，書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。 （ｲ）硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。 （ｳ）毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い，硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。 （ｴ）書写の指導に配当する授業時数は，第 1 学年及び第 2 学年では年間 20 単位時間程度，第 3 学年では年間 10 単位時間程度とすること。		

硬筆入門期の指導　書き方の基礎・基本を確かめよう

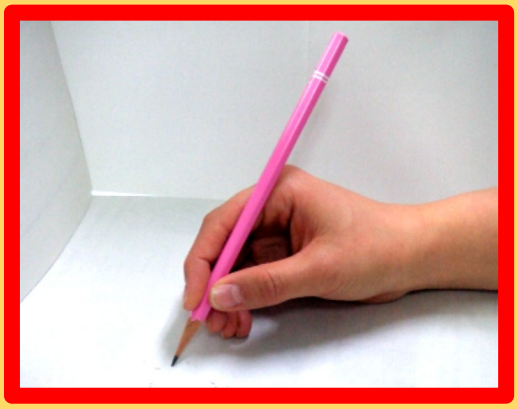
1. 鉛筆の正しい持ち方を指導しましょう

鉛筆の濃さは2B 程度がよいでしょう。

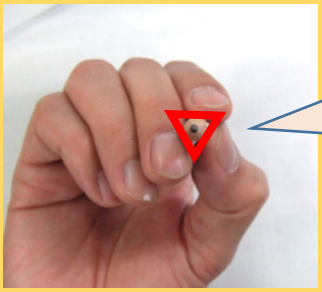


お箸を持つように、
正しい鉛筆の持ち方は、正しいお箸の持ち方と共通します。
まず、お箸を持つように、鉛筆を2本持ちます。下の鉛筆を抜くと、正しい鉛筆の持ち方になります。

＜正しい持ち方＞



正しい持ち方をすると、
① 指先を動かしやすく、楽に書け、速度も上がる。
② 書いているところが見えるので、姿勢も崩れない。
③ 長い時間書き続けても疲れにくい。



鉛筆を囲んでいる3本の指が三角形になっていれば「合格」です。
親指・人差し指・中指の3本でしっかりと鉛筆を支えます。

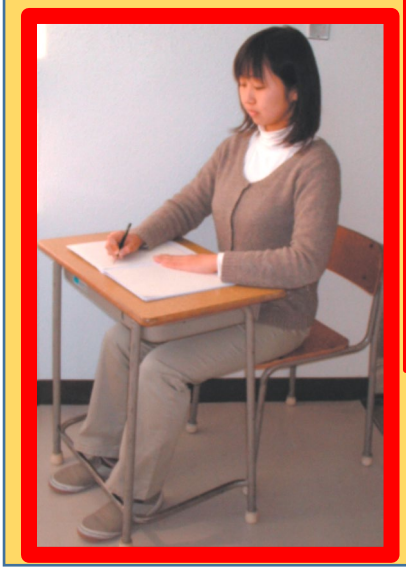
＜正しくない持ち方＞

正しくない持ち方をすると、
① 力が入りすぎてしまい、指先が動かしづらく、楽に書けない。
② 書いている文字が見づらくなる。

人差し指の上に親指が乗って握り込んでしまっている状態。

2. 楽な姿勢で書けるように指導しましょう

＜正しい姿勢＞



鉛筆の持ち方を正しくするとともに、姿勢も確認します。
① 足裏は床につけます。
② 背筋はまっすぐ伸ばします。
③ お腹と机・背中と背もたれの間に握りこぶし1つ分くらい空けて座ります。
④ 鉛筆を持たない手の手のひらで紙を押さえます。

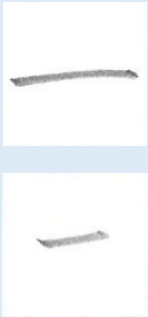
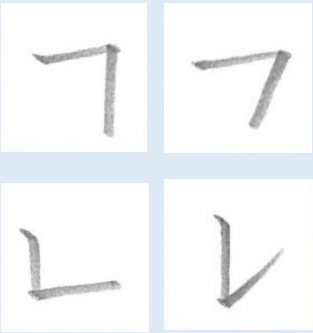
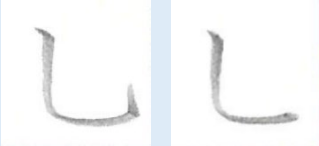
姿勢が正しいと、肩やひじも力まずに、指先の運動に集中することができます。
疲れずに、書字しやすい

＜正しくない姿勢＞

体が傾いているので、長い時間この姿勢でいるのはとても疲れます。

3. 読みやすく、整った正しい文字を指導しましょう

① 基本点画をおさえましょう。

横 画	左払い	折 れ	そ り
			
縦 画	右払い	曲がり	点
			

☆ 小学校第3学年からの毛筆学習にもつながる指導です。特に、点画の始筆と終筆の書き方に注意することが、文字をていねいに書くことにつながります。書き方を意識しながら、確実に書くようにすることが大切です。

終筆の種類

と め	は ね	はらい

ひらがなの結び

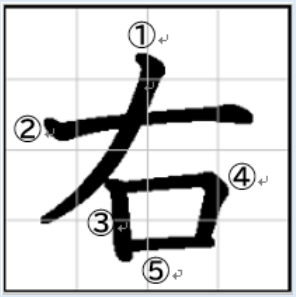
結 び	

② 筆順を確実なものにしましょう。

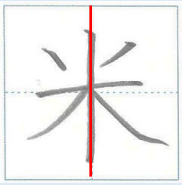
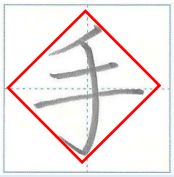
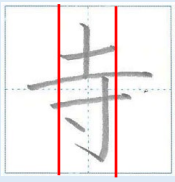
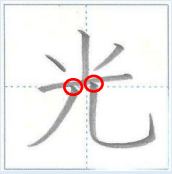
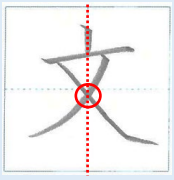
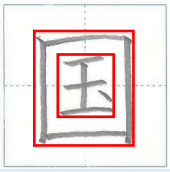
＜筆順の大原則＞

◎上から下へ（ 例 ： 三↓　言↓）　　◎左から右へ（ 例 ： 川　順 ）

＜指導の工夫例＞

一画ずつ色で区別する	番号をふる	空書きをする
		

③ 字形の仕組みをおさえましょう。

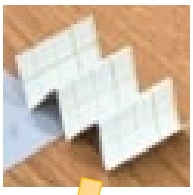
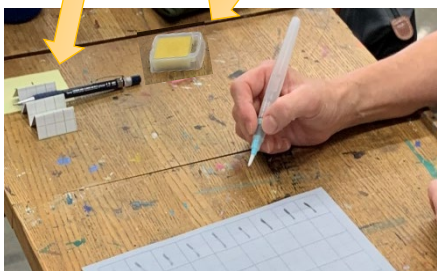
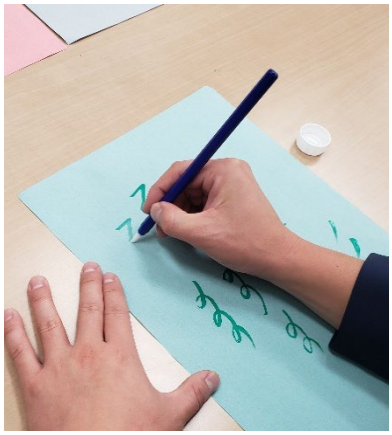
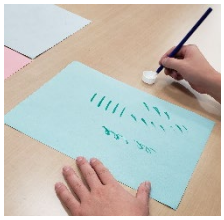
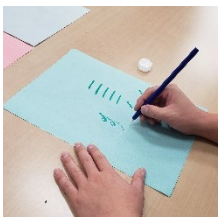
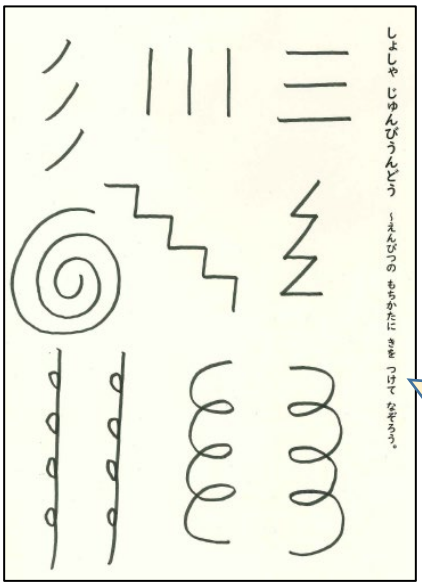
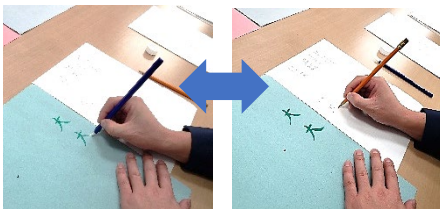
中 心	外 形	長 短	画と画の間	方 向
				
接し方	**交わり方**	**左 右**	**上 下**	**内 外**
				

☆ 「中心」・「外形」・「長短」・「画と画の間」・「方向」・「接し方」・「交わり方」・「左右」・「上下」・「内外」。
用語をきちんと押さえておくことで、学習のねらいを正しく伝えることにもつながります。子どもたちにとっては、課題解決に役立つポイントにもなるでしょう。

4. 水書用筆の活用と留意点

小学校第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕の(3)ウ(ｲ)における「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導について、適切に運筆する能力の向上につながるよう指導を工夫することを示している。水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫することが望ましい。水書用筆は、扱いが簡便で弾力性に富み、時間の経過とともに筆跡が消えるという特性をもっている。その特性を生かして、「点画」の始筆から、送筆、終筆(とめ はね はらい)までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる。また、水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる。

(小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　国語編より)

用具について	使い方	☆活用の仕方　と　◆留意点
【水書用筆】 ・水をつけるタイプ　・タンクタイプ 鉛筆に近い形だと、より硬筆の学習につながる。 【筆置き(方眼用紙)】  【水入れ】 	鉛筆と同じ持ち方で書く。  力まずに書くことを体感する。   【いろいろな線の例】  	☆ ウォーミングアップとして、授業のはじめの 5 分間で自由に使い、運筆能力を養う。 ◆ 硬筆の指導と関連させる。 ☆ 適切に運筆する力を身に付けるために、練習で「水書⇔硬筆」交互に使う。  ☆ 児童が使い方を理解し、必要と感じた時に、課題解決するために自ら水書用筆を使うことも考えられる。 ◆「点画の書き方」の指導に適しているが、「文字の形」の指導には適さない。(「文字の形の指導は、従来どおり硬筆で行う。) 書写の準備運動として、いろいろな線で運筆能力を養うために、色画用紙に印刷して練習することもできる。

書写　小学校 第１学年

＜目標＞

点画の書き方（止め・はね・はらい）に注意しながら
筆順に従ってていねいに書く

＜身に付けさせたい書写の力＞

〔知識及び技能〕
点画の書き方（止め・はね・払い）に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。
〔主体的に学習に取り組む態度〕
進んで点画の書き方（止め・はね・払い）に注意し、学習課題に沿って字を書こうとすること。

授業の展開（「かん字の　とめ・はね・はらい」　本時１／２時間）　Ａ案

【学習活動と内容】

０　ウォーミングアップ
・学習の準備を整え、姿勢や筆記具の持ち方を確認する。
・水書用筆で多様な線を引く。

１　教材の確認
・「小」を書くことを確認する。
・空書きで「小」の筆順を確認する。

２　目標の把握
・本時の学習のめあてを確認する。

「とめ」や「はね」にきをつけてかこう。

３　試し書き「小」
・文字教材を見て、硬筆（鉛筆またはフェルトペン）でワークシートに「小」を書く。

４　自己批正①
・本時の基準となる「とめ」「はね」に印をつける。

５　基準の把握

基準：「とめ」では鉛筆をしっかり止める。
「はね」では鉛筆を一度止めてから方向を変える。

６　水書用筆を活用した課題解決
・水書用筆を使って筆圧の変化に伴う点画の書き方や形の特徴を確かめながら練習する。
・必要に応じて水書用筆と鉛筆とを持ち替えて繰り返し活動に取り組む。

７　自己批正②（・相互批正）
８　まとめ書き
・試し書きとまとめ書きを比べて自分のめあてが達成できたか確認する。

児童の実態に応じて取り入れてもよい。

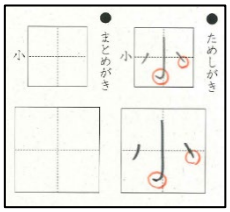
９　自己評価・相互評価
・本時の課題に沿って互いの成果を認め合う。

１０　他の文字への発展
・「小」以外の「とめ」「はね」をもつ漢字の点画に着目する。

１１　学習のまとめ

【指導の手立てと評価規準】

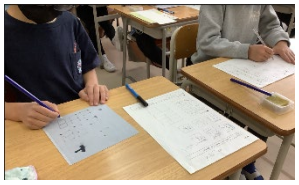
書写では毎時間、はじめの５分間を水書用筆の慣れの時間に位置付けるなど、児童が水書用筆を用いて適切な筆圧や自然な運筆に親しむことができるようにする。
また水書用筆は鉛筆と同じ持ち方、同じ姿勢で構えるように声掛けする。



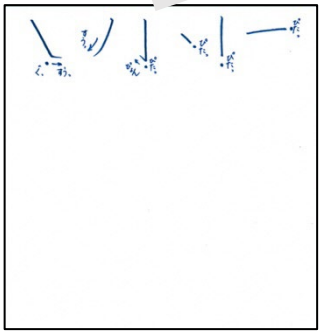
水書用筆で書くと点画の形や書き方がつかみやすい。

「ぴた」「ぴょん」など、点画の造形を感覚的につかめるオノマトペを用いながら取り組ませるのも効果的。

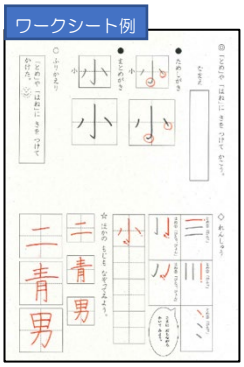
点画の書き方を確かめながら、水書⇔鉛筆と交互に繰り返し練習する姿を目指すようにする。



学習の基礎となる内容を印刷した色画用紙を用いれば、水書用筆を用いた練習のさらなる充実を図ることができる。



ワークシート例



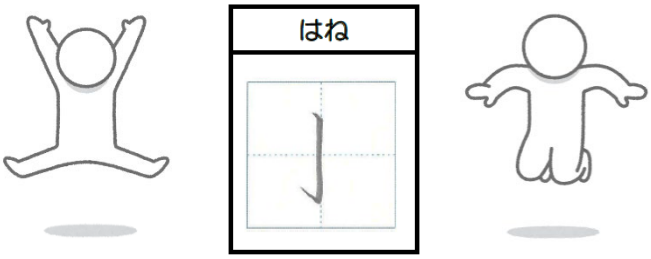
〔知〕点画の書き方（止め・はね）に注意しながら、筆順に従ってていねいに書いている。
〔主〕進んで点画の書き方（止め・はね）に注意し、学習課題に沿って字を書こうとしている。
〔行動の観察、ワークシートの記述〕

5. 子どもが書くことに興味をもつように指導しましょう

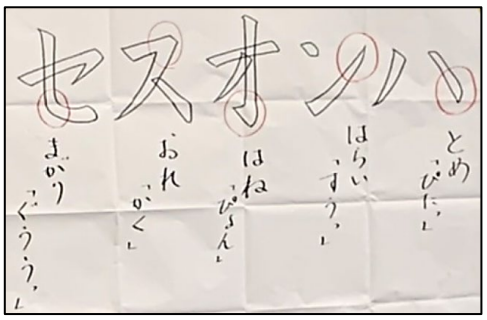
やってみましょう！「子どもが書くことに興味をもつような指導」

① 基本点画をおさえるときに

（ア）「はね」を指導するときに、児童と**一緒にジャンプ**！（硬筆の時に）



（イ）**音を使って**「とん」「すぅ」「ぴたっ」「ぴょん」など



② 筆順を確実なものにするときに

（ウ）毛筆では**手のひら**を、硬筆では**指先**を**筆記具に見立てて**、一画一画書き進めることを意識。

穂先のイメージがわくように、手のひらを使って（画面をクリック）

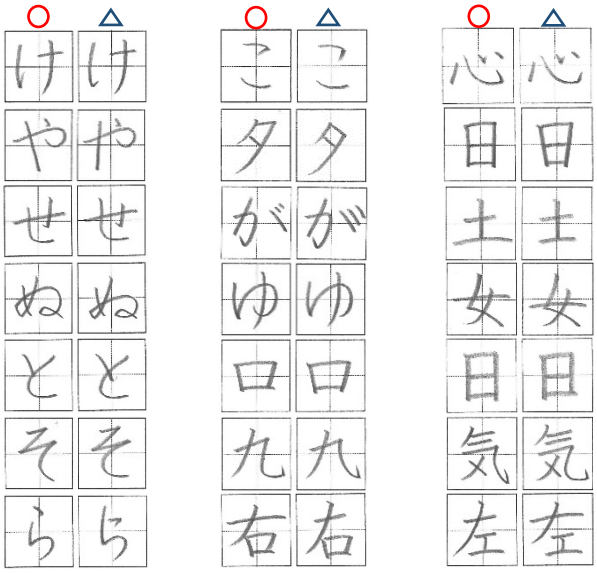
鉛筆やペンの先がイメージしやすいように、指先を使って

③ 点画相互の関係性を捉えるときに

（エ）拡大した文字の一画一画を、パズルのようにして組み立て、**点画の接し方**や**交わり方、方向**などを知る。

つまずきやすい点に注意して指導しましょう

- はねの向き（次の画に向けて）……
- 画の向き……
- 画の長さ……
- 画の交わり方……
- 画の接し方（横画と縦画のつき方）……
- まがりとそり（混同しやすいもの）……
- 筆順（正しい筆順と字形との関係）……

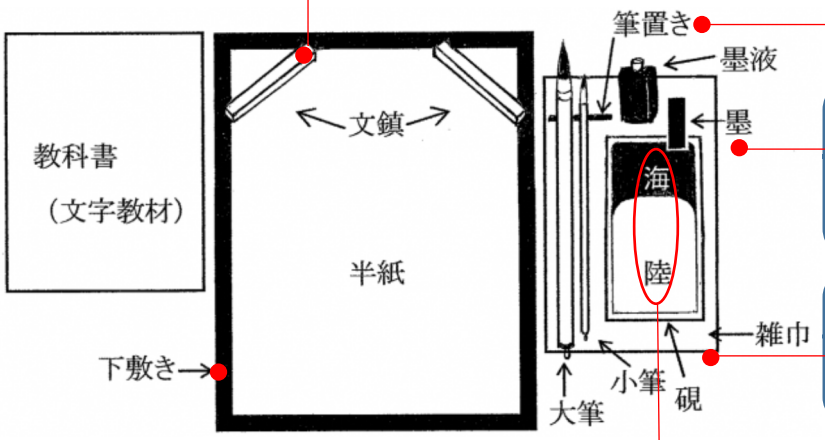


毛筆学習の準備と片付けの工夫　準備と片付けを効率よくしよう

1. 用具・用材の準備

2点でおさえると、書く文字や文字数に合わせて文鎮を置くことができます。

① 机上



紙を折って作っても良いです。

墨がぬれた状態で硯につけておくと、貼り付いてしまったり、乾燥したときに割れやすくなったりすることがあるので、磨った時には、水分を拭き取っておきましょう。

セット箱ごと出す場合には、硯の下に雑巾を入れ、こぼれた墨を吸い取れるようにしておきましょう。

下敷きは、しわになると書きにくいので、しまい方に気を付けます。

※左利きの場合は、硯などを左側に置きます。

② 墨（墨を磨るときに生かしましょう）

硯の陸に少量の水を入れて墨を磨り、海に溜めます。それを繰り返し、必要量の墨をつくります。硯の陸の全面で、まんべんなく磨るようにします。

良くない例

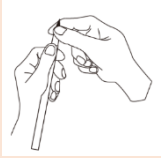
硯に接する面が丸くなったり、斜めになったりしないように、工夫して磨ります。
（墨の持ち方・動かし方に注意します）

※墨を磨るときも、墨液を使うときも、濃さに気を付けましょう。

③ 筆

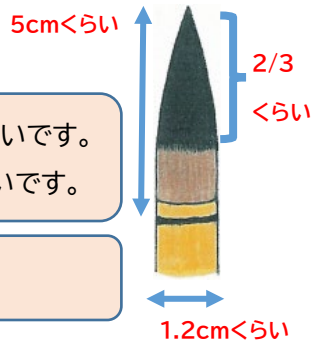
発達段階に応じますが、柔らかい毛の場合、使いこなしにくいこともあります。
硬めだと使いやすいです。

筆をおろすときは、穂先から 指先で少しずつ、ゆっくりとほぐします。



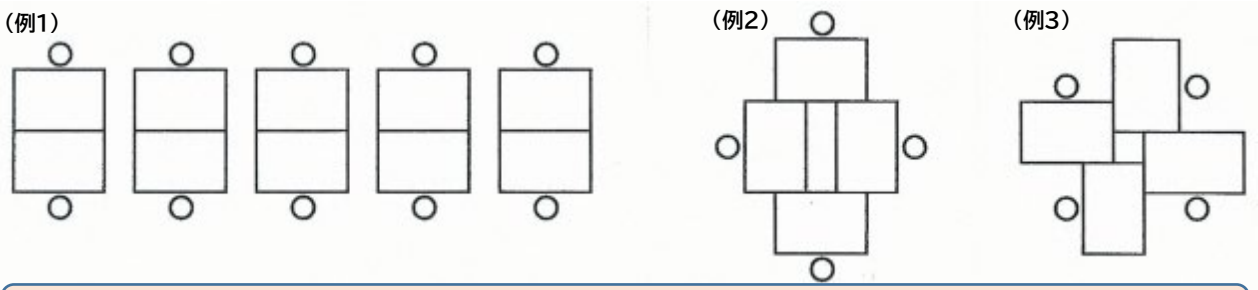
穂の長さは5cmくらい、軸の太さ1. 2cmくらいです。
穂の3分の2くらいまで、墨をつけることが多いです。

小筆は穂先だけをほぐすと使いやすいです。



④ 机の配置

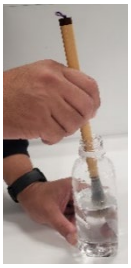
子どもへの支援の際、教師の動線がスムーズになるように机の配置を考えます。

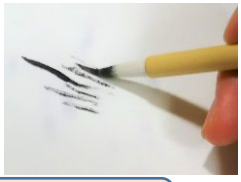


子どもが互いの書き方について見合ったり、話し合ったりできるようにすると効果的です。

2. 片付け

・ 硯は、墨を拭き取り、家庭に持ち帰って洗うようにします。
・ 筆は、各自100ml～300ml のペットボトルに水をいれておき、その中で洗って筆掛けに干しておくとよいです。
→ 教室に常に全員分の筆があることで学習の開始がスムーズになります。
・ 小筆は、ぬらした紙で墨を拭き取ります。
・ 汚れた水は、ペットボトルの口から排水溝に直接流すようにします。流しは最後に必ず洗剤で墨を洗い流しておきます。





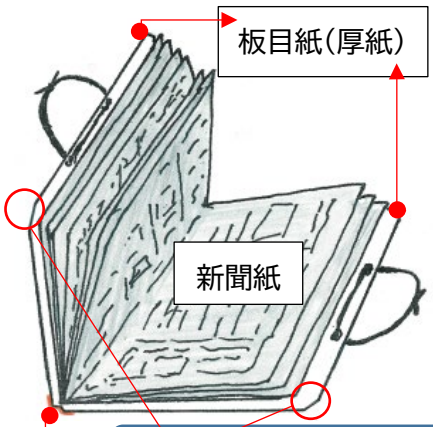
≪筆掛け≫　段ボールの箱を利用します

班毎に１本の棒に通しておくと便利です。

風通しを良くします。

墨がたれてもよいように、底はしっかりと閉じておくと安心です。

3. 紙ばさみ



安全のために角を切る。

ガムテープ等でつなぐ。

① 授業中に書いたものを入れるところ
② 未使用の半紙を入れるところ
③ 掲示等を終え、返却された**「まとめ書き※」**を入れるところ

①～③等を決めておき、机のフックに掛けて使用できるようにします。

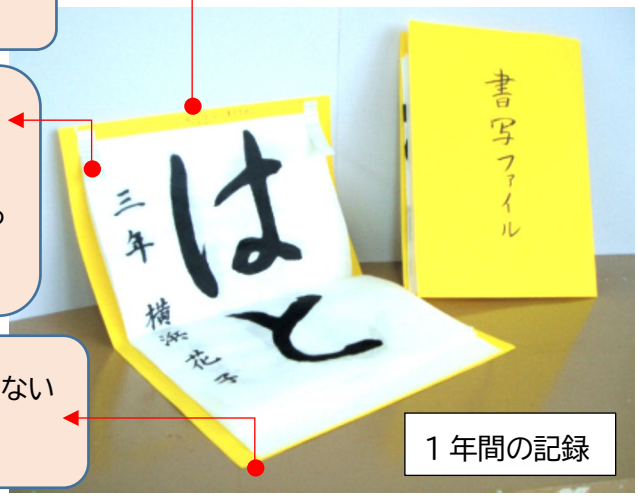
※**「まとめ書き」**…学習の最後に書いた半紙。その時間の課題を書きまとめるという意味で**「まとめ書き」**と呼びます。

4. 書写ファイル

台紙に１年間の教材の貼付位置を印刷しておきます。

両面テープを貼っておき、１教材分ずつ剥離紙をはがして「まとめ書き」を貼っていきます。

１枚目が台紙からはみ出ないように位置を決めます。

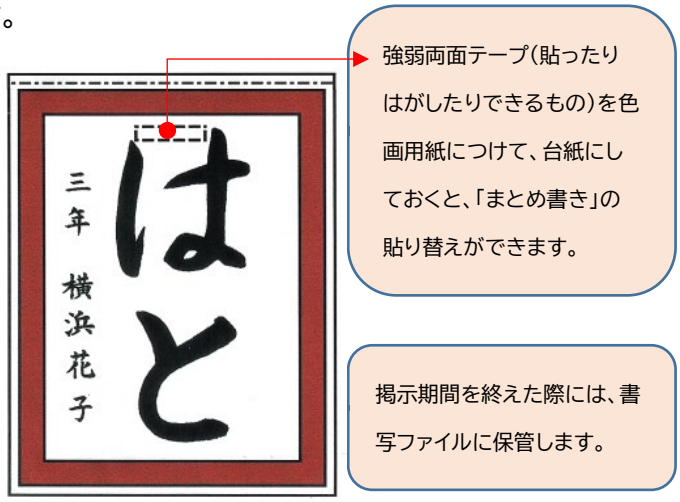


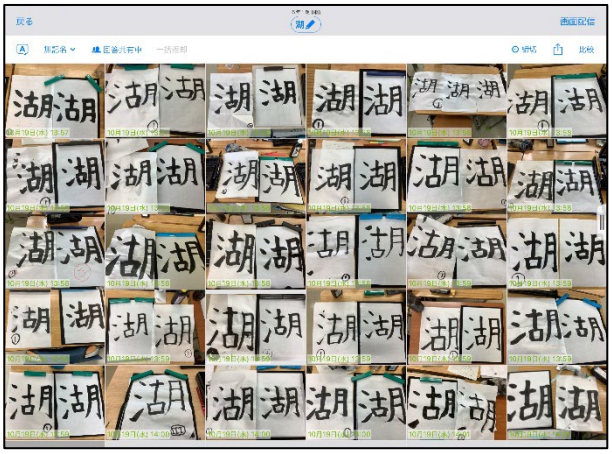
１年間の記録

自己評価とともに、「まとめ書き」をファイルにし、書写の時間に学んだことや、自分の課題をまとめておくことによって、身に付いた資質・能力を確認することができます。

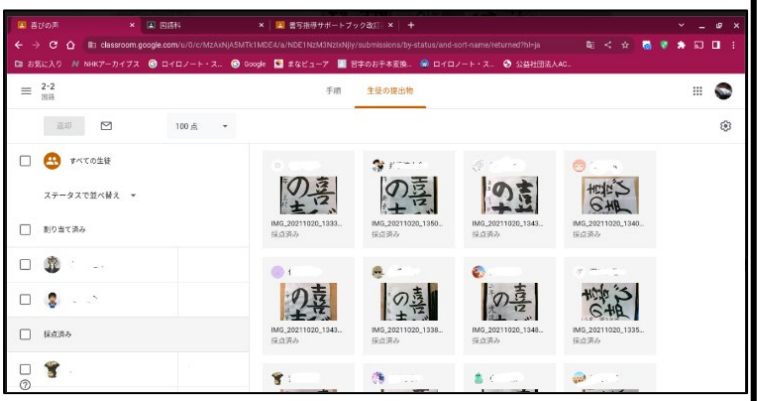
5. 掲示と保管

・ 作品作りをしているわけではありません。文字教材ごとに、「設定された学習課題」が分かるようにしておきます。
・ 各自の自己評価や思いを、付箋紙等で伝えられるような工夫も大切です。
・ 掲示した「まとめ書き」は「書写ファイル」や「端末へのデータ保存」などで整理します。学習の成果を積み重ねていくことで、児童生徒が自分の学びを振り返ることができます。





ロイロノートでの提出・保管

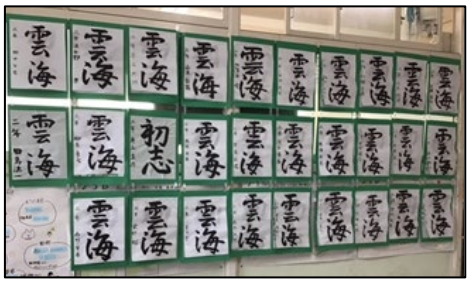


GoogleClassroom での提出・保管

試し書きとまとめ書きを並べて撮影して記録することは、変容を捉えることにも効果的です

目的に応じて ICT を活用したり、教室や廊下等に掲示したりすることが考えられます。

授業支援クラウドサービスの協働学習用ツールやチームコミュニケーションツールを用いることで、児童生徒同士が相互批正や交流等を行ったり、教師が学習の状況を把握したりすることができます。



教室外　学年フロアでの掲示

教室内　授業時間内での掲示・共有

玄関等　学習の成果の紹介

毛筆入門期の指導　毛筆学習の過程をおさえよう

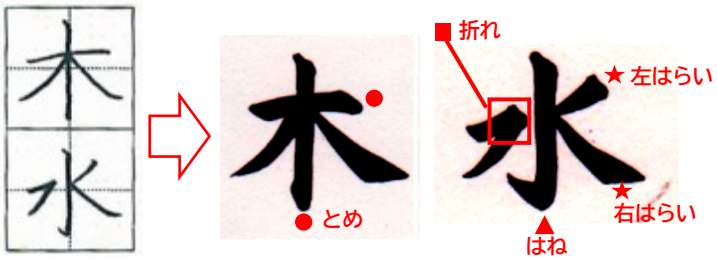
1. 毛筆学習の効果と基本的な指導事項

毛筆の学習では、毛筆の特徴を生かし、半紙に大きく書くため、「とめ」「はね」「はらい」などの基本点画の筆使いや、点画の組み立て方などの、字形の整え方が理解しやすくなります。

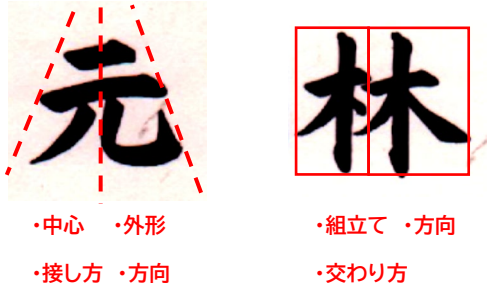
また、文字の形を正しく整えて書くための「正しい姿勢」「正しい構え」が意識化されます。

筆で書くと、

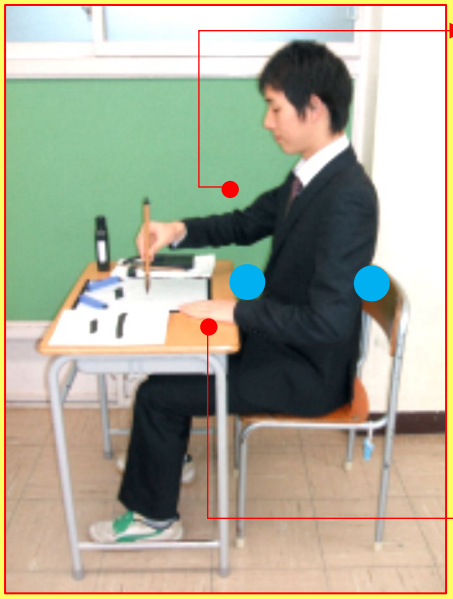
① 筆使いのポイントを確かめやすい。



② 文字の整え方のポイントを確かめやすい。



＜正しい姿勢と構え＞

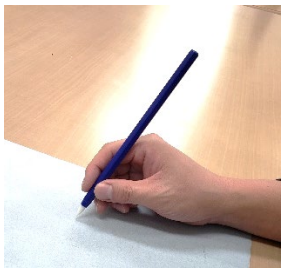


ひじは、持ち上げて書きます。

背筋を伸ばし、お腹と背中はこぶし1つ分くらい空けます。

筆を持たない方の手は、半紙の上に軽く置きます。

＜水書用筆＞



＜小筆＞（中学年以降）

小筆はやや立てて持つ。

＜筆の持ち方＞

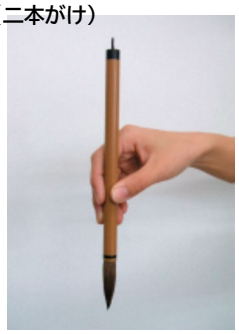
一本がけは、毛筆に限らず、多くの硬筆の筆記具でも用いられるため、硬筆と毛筆の関連が図りやすいといえます。二本がけは、軸の太い大筆を安定して持つことができます。

（一本がけ）

人差し指一本をかけます。

中指で支え、薬指と小指をそえます。

（二本がけ）

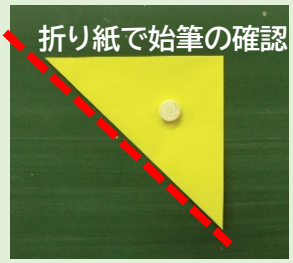


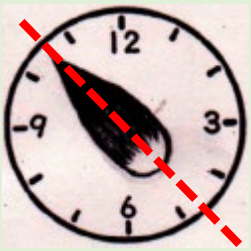
人差し指と中指の二本をかけます。

薬指で支え、小指をそえます。

2. 毛筆入門期の運筆の基礎

入門期から、点画の書き方である「始筆」「送筆」「終筆」、点画の種類である「横画」「縦画」「左払い」「右払い」などの書写用語を指導に取り入れ、児童も使えるようになることが大切です。



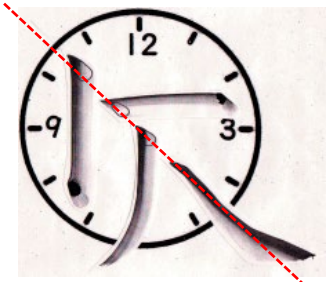


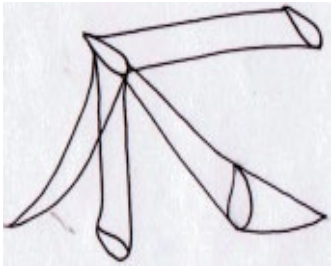
★始筆(しひつ)～書き始めのこと
漢字の場合、基本的に10時半(45度)の方向

★送筆(そうひつ)
～筆を送る過程のこと

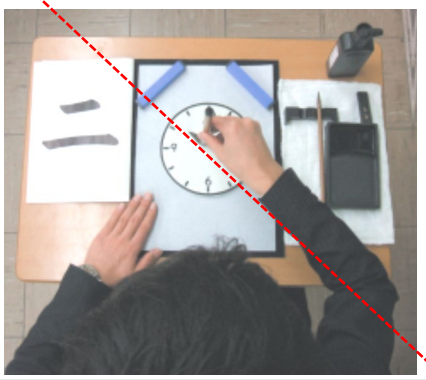
★終筆(しゅうひつ)
～書き終わりのこと

★穂先の向き(は始筆の位置)





筆の軸や手首はまわさないで書くことがポイント



＊穂先の向きは、腕を構えた方向(45度)と同じ

＜筆圧の違いによる線の変化＞

筆圧:書くときに鉛筆や筆の先に加える力のこと

① 弱い力

② 中くらいの力

③ 強い力

3. 毛筆の筆使いと基本点画の種類（硬筆とのつながり）

始　筆

① 横　画

45度の方向に筆を下ろし、軸を回さず力をゆるめないで横に運ぶ。

② 縦　画

45度の方向に筆を下ろし、そのまま軸を倒さず、真下に運ぶ。

送　筆

③ 折　れ

横画を受けて筆を一度止め、そのまま下へ運ぶ。

横(縦)画の終筆を、縦(横)画の始筆とする。

縦画を受けて筆を一度止めてから、右上へ運ぶ。

④ 曲がり

送筆の半ばで、速さと力をややゆるめ、丸みがでるようにゆっくり曲げる。

⑤ そ り

大きな円の一部を描くように、軸を回さず筆を運ぶ。

⑥　点

点は短い画の一つで、45 度の方向に筆を下ろし、短く引く。

終　筆

⑦ と め

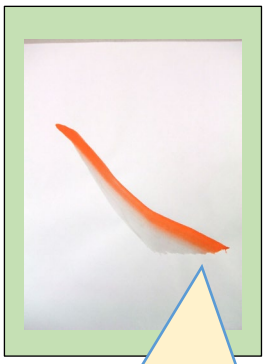
送筆を受けて筆を止め、穂先の方へ押し戻すようにして、始筆と同じ45度の方向で止める。

⑧ は ね

画の終筆部で、穂の腹の部分を内側に少し入れ、一度止めてから、穂先をまとめながら左上にぬく。

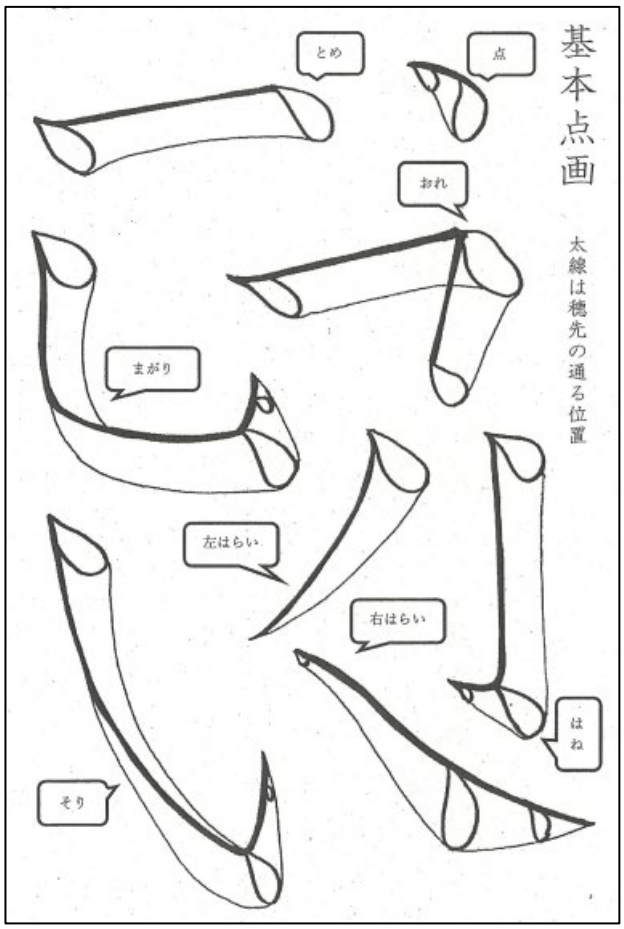
⑨ 払い（ 左払い ／ 右払い ）

穂先をまとめながら、左方向に払う。（下方向の払いもある）



軽く入れて止め、だんだん力を加え、筆を一度止める。穂先をまとめながら、右へ払う。

穂先の通る位置を視覚的に捉えるために、薄墨をふくませた筆の穂先に朱墨をつけて書くことで、穂先の位置を視覚的に分かりやすくすることができます。



4. 硬筆との関連指導

毛筆と硬筆を関連させ、日常の硬筆の場面に生かす学習指導を心がけましょう。

毛筆学習のまとめの時間に、本時で学習したことを生かす硬筆学習を設定し、関連を図ります。

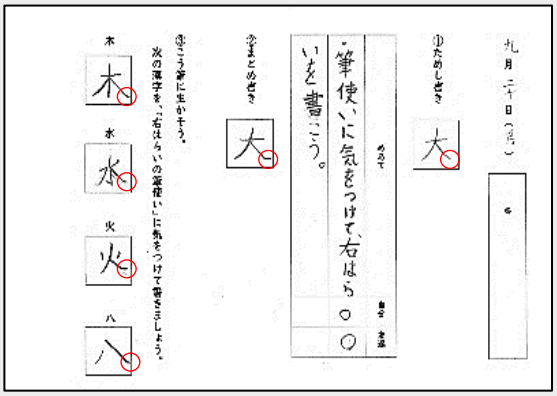
（例1）「筆使い」の学習

日常の硬筆文字の確認
（鉛筆で「大」を書く）

① 毛筆で「大」を学習する。
◎ 右はらい
○ 左はらい

② 本時のまとめに硬筆で「大」を書く。

＊点画を意識した文字
＊子どもの文字感覚の育成



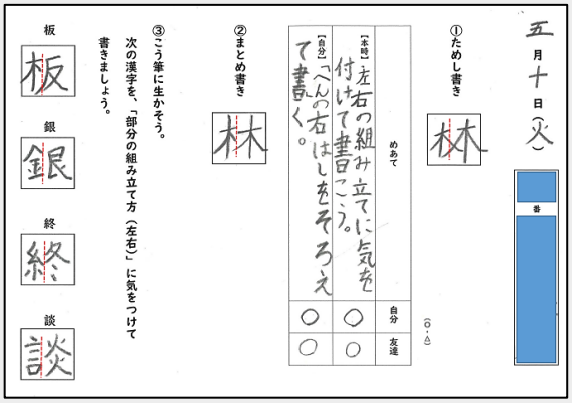
（例2）「部分の組み立て方」の学習

日常の硬筆文字の確認
（鉛筆で「林」を書く）

① 毛筆で「林」を学習する。
◎ 部分の組み立て方
○ 点画の方向
○ 点画の交わり方
★

② 本時のまとめに硬筆で「林」を書く。

＊★をより意識した文字
＊同じ要素をもつ漢字への応用



5. 一単位時間の基本的な流れ

課題解決学習ということを念頭に置き、一単位時間の学習の流れを考えることが大切です。
この単元を学習することで、子どもたちにどのような力を付けるのかを明確にして、そのための手立てを考えましょう。

展開例	【A 案】 まず、めあてを意識しよう ~最初からめあてをきちんと意識して課題解決を図りたいとき~	【B 案】まず書いてから、課題を明らかにしよう ~気付きを大事にし、課題をより明らかにして課題解決を図りたいとき~
①めあて ②基準を 知る(理解) ↓ 解決するために 見る(観察) ↕ ①知るために ②解決する ために 書く(課題解決) ↓ 生かすための まとめ(検証・発展)	1 教材の確認 2 目標の把握 ・本時のめあてを知る。 3 試し書き(硬筆と毛筆) ・筆順を確認する。→教科書を見ながら書く。 4 自己批正① 【課題を見つける①】 ・試し書きしたものと文字教材を比較する。 ・赤鉛筆等で課題を〇や△、線や文字で記入する。 5 基準の把握 【課題解決のための方法を知る】 ・めあてを達成するために大事なことを考える。 6 練習用紙で基準の練習 【課題解決を図る①】 ・かご字や骨書きプリントなどで、個の課題に応じて練習する。 7 練習 ・教科書を見ながら基準や課題を意識して練習する。 8 自己(相互)批正② 【課題を再確認する②】 ・自分(友だちと)で書いた文字を批正する。 9 まとめ書き 【課題解決を図る②】 ・基準や自分の課題を意識してまとめ書きをする。	1 教材の確認 2 試し書き(硬筆と毛筆) ・筆順を確認する。→教科書を見ないで書く。 3 自己批正① 【課題を見つける①】 ・教科書と比較して課題を確認する。 4 目標の把握 ・本時のめあてを知る。 5 基準の把握 【課題解決のための方法を知る】 ・めあてを達成するために大事なことを考える。 6 練習用紙で基準の練習 【課題解決を図る①】 7 練習 8 自己批正② 【課題を再確認する②】 ・教科書と比較し、基準を意識して書かれているか確認する。 9 相互批正 【課題を再確認する②】 ・友だちと批正し合う。 10 まとめ書き 【課題解決を図る②】 ・明らかになった課題を意識してまとめ書きをする。

自己評価
・試し書きとまとめ書きを比較する。
・めあてが達成できたか確認する。

硬筆への発展 【硬筆に生かす】
・毛筆で学習したことを硬筆に生かす。

本時のまとめ
・成果と次時の課題を確認する。

身に付けたい書写の力を確認し、その内容や学年に応じて 【A 案】と【B 案】を選ぶことが考えられます。

【A 案】 ⇒ 最初からめあてをきちんと意識して課題解決を図りたい

【B 案】 ⇒ 気付きを大事にし、課題をより明らかにして課題解決を図りたい

こちらからそれぞれの指導案を見ることができます。

- 小学校低学年:筆記具の正しい持ち方
- 小学校中学年:漢字の組立て方
- 小学校高学年:用紙に合った文字の大きさ
- 中学校 2 年生:行書と仮名の調和

書写の課題解決学習を展開するための指導と評価

課題解決学習を意図した評価の考え方

教師がおさえておきたいポイント

- ○ 書写も、他の教科等と同じように「**本時目標**」があります。
- ○ 子どもたちが本時目標を達成できるための手立てを考えましょう。
- ○ そのために、毎時間の評価は、**文字の形の良し悪しにとらわれるのではなく、**
  「**試し書き**」から「**まとめ書き**」の間に「**本時目標**」**が達成できているか**を評価します。

一単元における学習の流れ（児童生徒の視点からの課題設定） 自己批正

単元の始めに行う「**試し書き**」と、単元の最後に行う「**まとめ書き**」を比較します。
これらを比較することで、子どもが学習の成果を自覚することができます。
黒板に並べて貼ったり、端末内に並べて表示したりすることで、比較がしやすくなります。

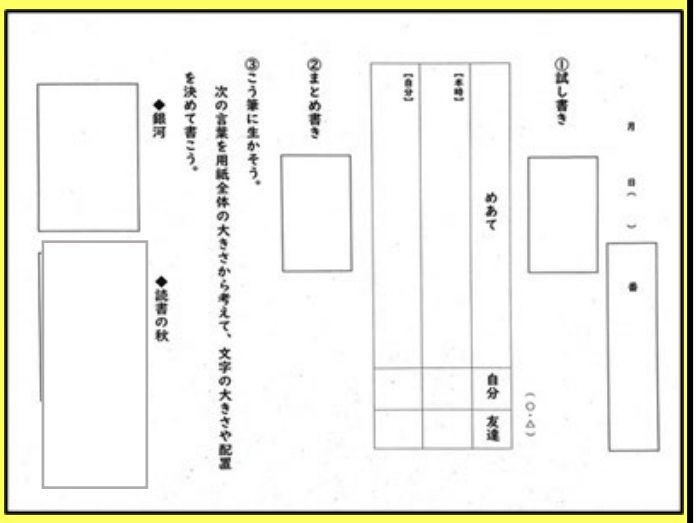
試し書き　　自己批正　　まとめ書き

めあての決定・自己評価

① 単元の評価規準をもとに、児童生徒自身が、めあてを設定する。
② 児童生徒が「何を」「どう」自己評価すればよいか、具体的に示す。
③ 自己評価カードを工夫し、子どもが容易に自己評価できるようにする。

≪カード例≫　自己評価カード～上下の部分の組立てを考えて書こう

振り返りの視点	試し書き	まとめ書き	
	自分	自分	友達
（例）形・線の向き（点画の方向） 高さをせばめるために二画目の線の向きを斜めにする。また、三画目は斜めにはらう。 児童生徒が考えて記入できるとよい。	△	○	○
（例）それぞれの部分の高さ 「雨」の高さをせばめて、同じくらいにする。 児童生徒が考えて記入できるとよい。	△	○	◎



めあてを実現するための工夫

練習用紙の工夫

教師が用意したものを使ったり、子ども自身が文字教材を見て作ったりすることも考えられます。
自分の課題に合ったものを選んで作ることで、課題を解決していくことにもつながります。

○ かご字

・筆使いや字形を捉えさせたいとき
・点画の接し方を捉えさせたいとき

○ 穂先の位置を示す線

・穂先の位置を捉えさせたいとき
（P.17 参照）

○ 中心線

・文字の中心を捉えさせたいとき

○ ほね書き

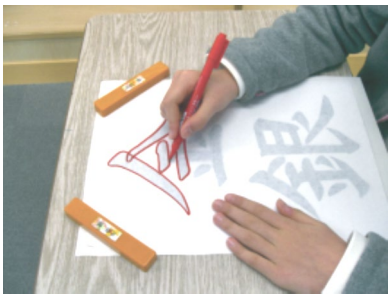
・字形を捉えさせたいとき
・組立て方に意識を向けさせたいとき

○ 穂先の向きを示したほね書き

・始筆における穂先の向きを捉えさせたいとき

○ 外形を示す線

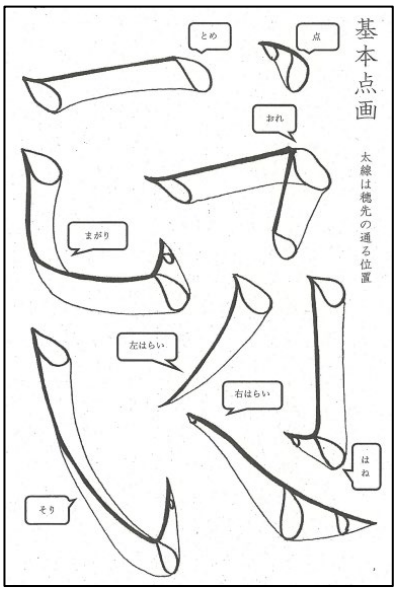
・大体の字形や大きさを捉えさせたいとき

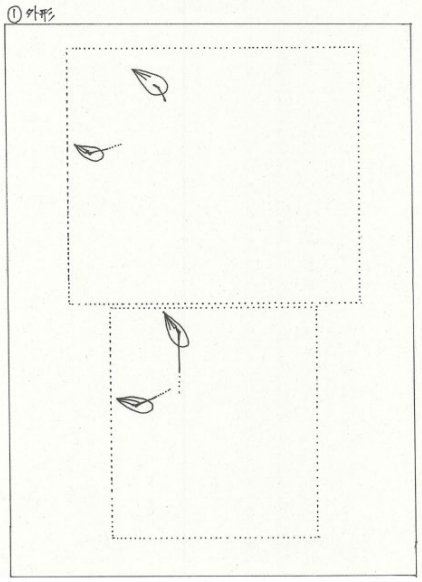


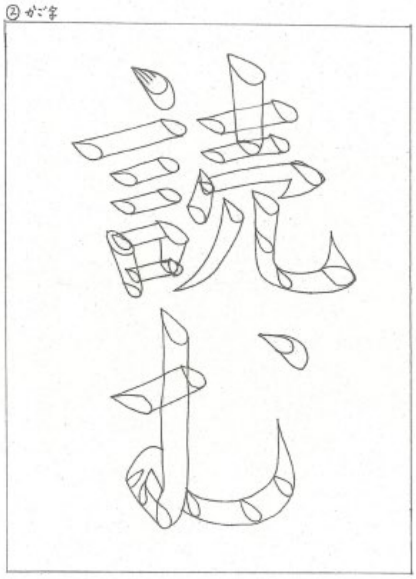
かご字の作り方

かご字を作るときは…

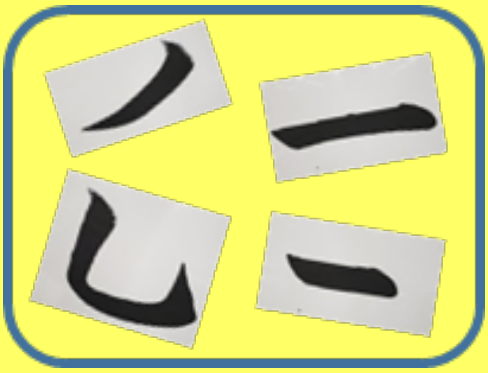
○ 文字教材を B4 サイズに拡大して印刷します。
○ 文字教材の上に半紙をのせて、赤いサインペン等を使ってなぞります。

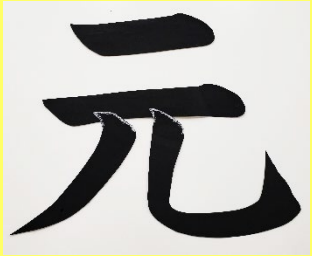






練習方法の工夫 【分解文字の操作】





分解された点画を、子どもが組み立てる。

点画の接し方や文字の組立て方を視覚的に捉えることができる。

分解文字を作るときは

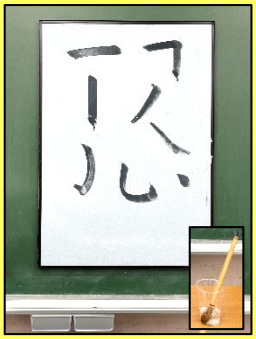
【黒板用】 ○ 文字教材をコピーして、一画ずつに分けて切り抜きます。
※総画数分印刷したり、必要に応じて拡大したりしてもよいでしょう。
○ 色板磁石や厚紙に貼り合わせます。
※磁石が無い場合は、手元を移すカメラを使用して画面で共有することも考えられます。

【個人用】 ○ 一画ずつに分けた文字教材を作成し、全員分印刷します。子どもたち一人ひとりが切り抜き、筆順にしたがって組み立てます。

教具の工夫

≪毎時間活用できるもの≫

・水 書 板

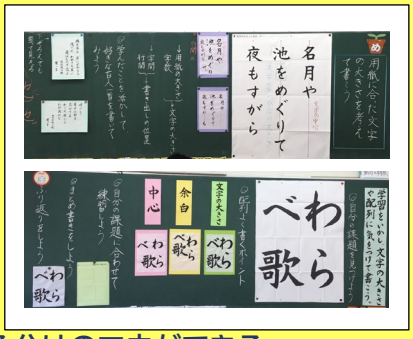


運筆が視覚的に分かり何度でも使用できる。

・自分の手（空 書）

自分の手を筆に見立てて、空中で筆順を確認する。

・板 書 ・拡大した文字教材



色分けの工夫ができる。

≪活用できるもの≫

・教科書の QR コード / ビデオ教材（DVD 等）
・TV 画面（またはプロジェクター投影）
・CD-R（練習用紙や文字教材などのデータが入っているもの）
・一人一台端末
・全体で視聴することの他、児童生徒が各自端末で QR コード等を読み取り、必要に応じて繰り返し動画等を確認することも工夫の一つです。

≪掲示し、確認したいこと≫ ・正しい姿勢 ・執筆の写真 ・用具の配置 等

中学校行書学習の指導　速く書く力を伸ばそう

1. 小学校書写から中学校書写へ

小学校の学習のポイント

1. 姿勢・用具の持ち方

2. 基本点画と筆使い

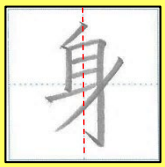
穂先の動きと点画のつながり
書く速さ

3. 筆 順

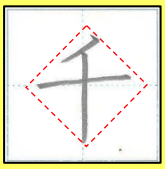
4. 字 形

全 体

①中 心

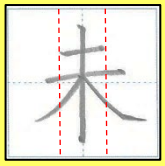


②外 形

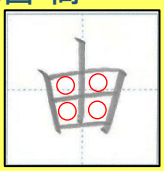


基本点画の組立て方

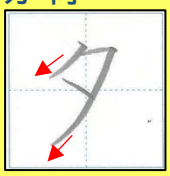
①長 短



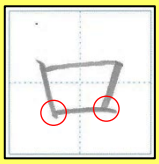
②画 間



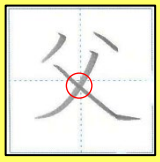
③方 向



④接し方



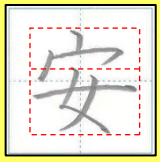
⑤交わり方



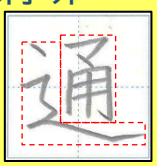
部分の構成法

①左 右

②上 下



③内 外



5. 配 列

①字 間　②行 間　③文字の大きさ(字配り)

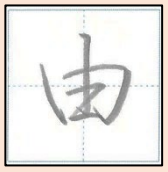
中学校での＋α

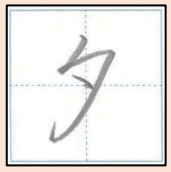
2. 行書の筆使い

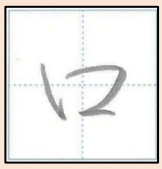
3. 行書の筆脈を意識した学習

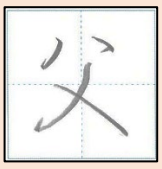
4. 行書の字形学習

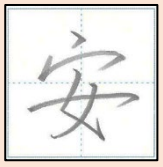
行書になっても、基本構造は変わりません。











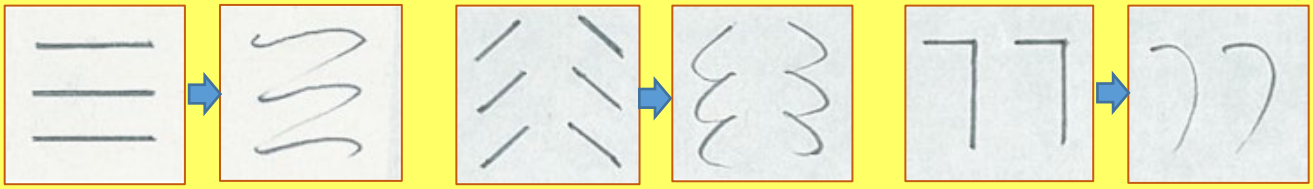
2. 行書の学習の進め方

行書は点画を連続的に書いた書体で、楷書に比べ文字を速く書くことができます。
文字を書く機会や量が増え、書く速さも求められてくる中学生にとって、学習が必要な書体です。

STEP1　行書学習を始めましょう（　線の連続　・　点画の丸み　）

①形や線を、実際に速く書いてみる。

→ 線を連続させたり、点画を丸くしたりすると速く書けることを知る。



②自分の名前を一筆で速く書いてみる。

→ むやみに連続させると、読みにくく、かえって速く書けない。

速く、読みやすい文字を書くために、まずは行書の基礎的な書き方を理解しましょう。

STEP2　楷書と行書の違いをとらえましょう

学習の展開例（　楷書と比較して特徴をとらえる　）

1）既習の楷書の学習を思い出しながら、「空想」を楷書で書く。
2）教材文字を見ながら「空想」を行書で「試し書き」する。
3）楷書と行書の違いで気付いたことを発表し合う。

【B と判断できる具体の姿】
楷書と行書の字形の違っている部分を指摘できる。

【A と判断する具体の姿の例】
→ 楷書と行書の違いを、特徴をあげて指摘できる。

4）行書の特徴を確かめる。

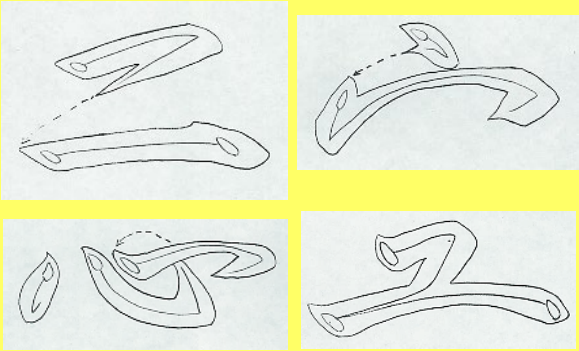
筆脈の連続
①点画の連続　②点画の丸み　③点画の方向や形の変化
④点画の省略（⑤楷書と異なる筆順）
＊筆脈とは…点画を書き進める際の気持ちのつながり

5)まとめ書きをする。

STEP3　部分ごとに行書の筆使いを確かめましょう

＊「空想」の部分の筆使い（筆脈）を、「かご字」や「ほね書き」を用いて確かめる。

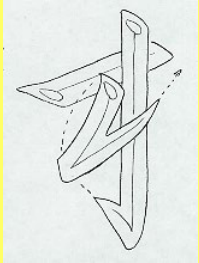
①　点画の連続



②　点画の丸み

③　点画の方向や形の変化

④点画の省略



STEP4　実際に課題を書きながら行書の特徴を理解しましょう

書道の作品としてではなく、その時間に学習するべき課題（行書の特徴）ができているかをみとり、評価します。

①　点画の連続

課題の目標　：「三」「里」の横画の連続。

課題例

【B と判断できる具体の姿】 → 最後の画につなぐ、横画の連続ができている。

【A と判断する具体の姿の例】 → 筆脈が意識された横画の連続になっている。

②　点画の丸み

課題の目標　：「白」の三画目、「夜」の六画目の「折れ」。筆を止めず角張らないように折る。
前後の横画、縦画の曲線化も意識して書く。

課題例

【B と判断できる具体の姿】 → 「白」の三画目、「夜」の六画目の「折れ」の丸みができている。

【A と判断する具体の姿の例】 → 筆脈と点画の連続が意識され、「白」「夜」全体が丸みを帯びて書けている。

③　点画の方向や形の変化

課題の目標　：「未」「来」の左払い。払いきらずに、次の画へ向けて軽くはね出す。
「未」の右払い。払わずに軽く止める。「来」の右払い。払わずに方向を変えてしっかり止める。

課題例

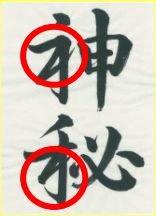
【B と判断できる具体の姿】 → 左払い、右払いの形や方向が変化している。

【A と判断する具体の姿の例】 → 筆脈と点画の連続が意識され、左払い、右払いの形や方向も変化している。

④　点画の省略

課題の目標　：「神」の「しめすへん」、「秘」の「のぎへん」を省略した形で書く。
偏から旁へつながる筆脈を意識して書く。

課題例



【B と判断できる具体の姿】 → 「神」の「しめすへん」、「秘」の「のぎへん」が省略した形で書けている。

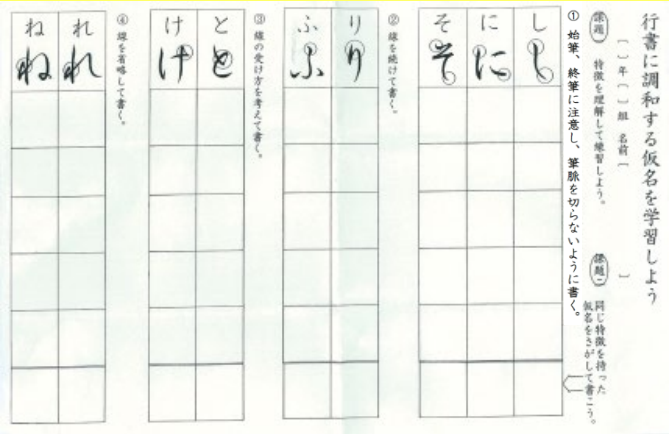
【A と判断する具体の姿の例】 → 「神」「秘」の偏から旁の筆脈がつながるように書けている。

STEP5　行書に調和する仮名を学習しましょう

仮名は一字単独で扱われるものではないので、漢字に調和させることを意識して学習を進めていきます。
ワークシートとしては、他にも「漢字仮名交じりの文章を書く」等が考えられます。

学習の展開例

1）これまでに学んだ行書の学習を想起する。
2）行書に調和する仮名の書き方を考える。
3）部分的に照らし合わせながら練習する。
4）ポイントとなる箇所について相互評価する。
5）同じ特徴をもった文字を探す。
　①の特徴「て」「ろ」　②の特徴「ら」「な」
　③の特徴「ち」「せ」　④の特徴「わ」



【B と判断できる具体の姿】→　行書に調和する仮名の特徴を理解し、書くことができている。

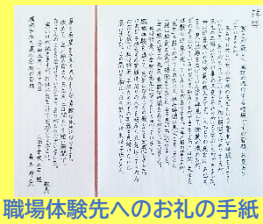
【A と判断する具体の姿の例】→ 同じ特徴をもった仮名を探し、書くことができている。

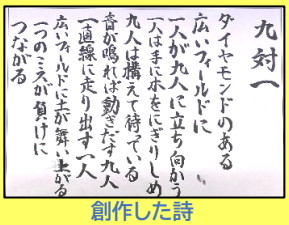
STEP6　毛筆から硬筆へ学習を進めましょう

行書の特徴を生かして硬筆で書きます。これまで毛筆を使って学習してきた行書の特徴を、硬筆に生かすことを学びます。ワークシートには、実生活に結びつく「はがき」や「手紙」等も効果的で、筆記具は、ボールペンやサインペン、万年筆なども利用できます。

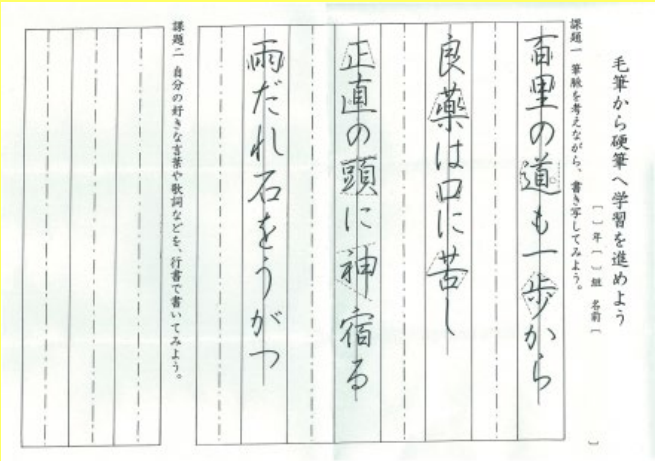
学習の展開例

1）筆脈を意識して、漢字や仮名を書く。
2）文字の大小や中心を考えて書く。
3）行書とそれに調和する仮名の特徴を生かして、
　自分の好きな言葉などを書く。


職場体験先へのお礼の手紙



創作した詩



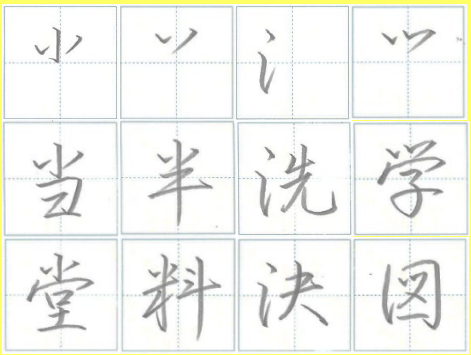
【B と判断できる具体の姿】→　行書とそれに調和した仮名の特徴を理解し、書くことができている。

【A と判断する具体の姿の例】→ 自分の好きな言葉などに応用して書くことができている。

☆目的や必要に応じて、「楷書」又は「行書」を選んで書くことができるようにします。
（例）
・「願書」 や 「提出書類」 を書く場合には、「楷書」がふさわしいです。
・「メモ」や「ノート」、「手紙」などを書く場合には、使用する目的や相手との関係性などを考えた上で、「行書」を用いることも考えられます。

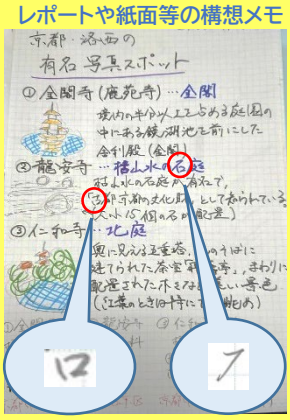
様々な漢字を行書で書くときには、点画を連続させるパターンを応用していきます。

・点からの連続



日常のノートやワークシート等

レポートや紙面等の構想メモ



・横画からの連続

（横画から横画）　（横画から払い）

・払いから横画への連続

・折れから横画への連続

【評価カード（例）】

〇学習課題に対する継続した自己評価表

〇学校行事や日常生活に密着した内容、国語科における言語活動や、他教科等と関連する内容などを、積極的に学習に取り入れ、書写の力の「日常化」を図りましょう。

（例）パンフレット　招待状　係のポスター　依頼文　お礼の手紙　報告文　年賀状　等

書写の生活化とカリキュラムの工夫　書写の学習を発展させよう

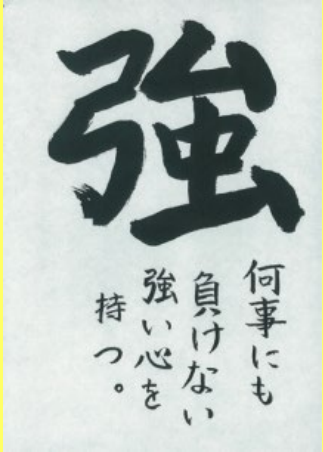
1. 書写の生活化をねらいとした発展学習

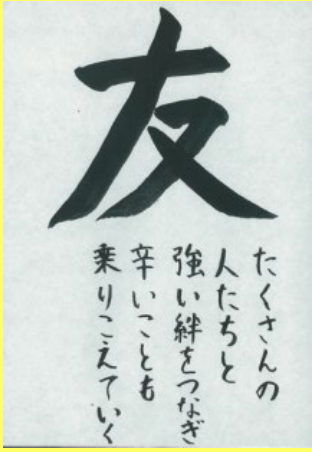
生活の中で使う様々な形式を理解し、目的に応じた用具や書体を選び、文字の大きさや配列・配置に気を付けて書きます。

○ 毛筆で書く

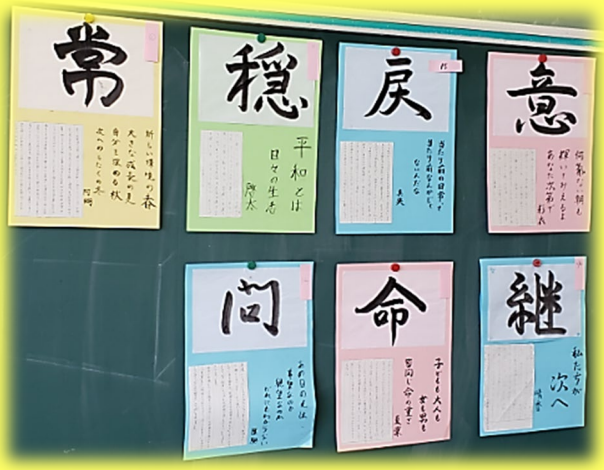
＜ねらい＞　目的に応じて書体を選び、調和よく書く。

＜ねらい＞　生活の中に書き文字を生かす。





個人目標

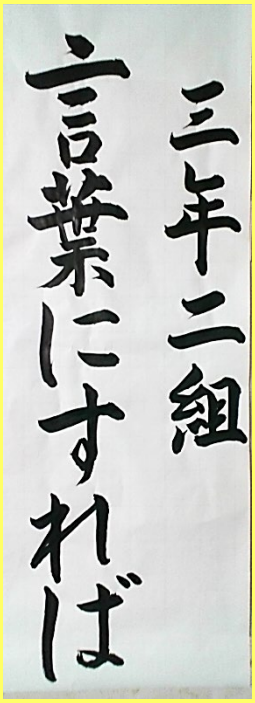


平和を願う一字と解説文

正しく伝える目的をもつ場合は「楷書」でていねいに書く。

自分の考えを「字配り」を考えて書く。

これまでの学習で身に付けた力を、学校行事や国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」などの他領域において活用する場面を、意図的に設定することも大切です。

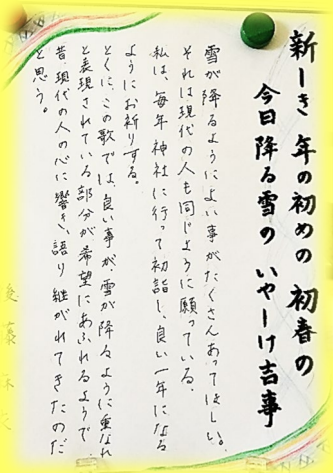


合唱コンクール
めくりプログラム

クラス旗

学年旗

和歌の学習との関連



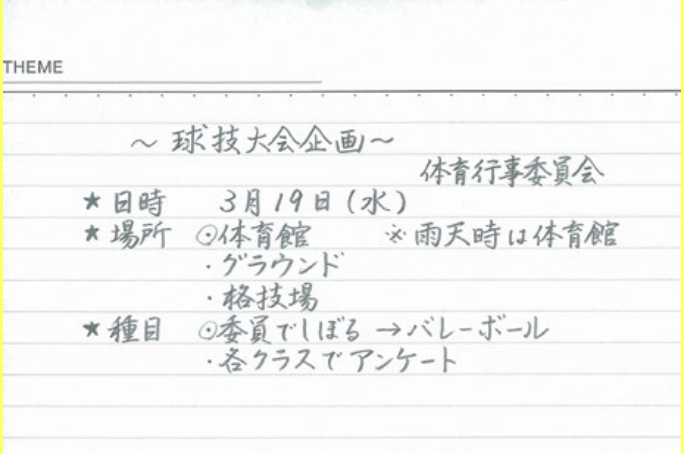
文字に対する興味・関心を高めながら、これまで学習してきた「楷書」や「行書」、それらに調和する仮名を使って、和歌の鑑賞文を書いたり、百人一首の札を作ったりするのもよい。

○ いろいろな筆記具を使って書く

＜ねらい＞　適切な用具や書体を選び、筆記具の特徴・紙質や文字の大きさ、太さを選ぶ。

＜ねらい＞　行の中心や行間を考え、余白や調和を意識して伝わりやすく書く。

読み手を意識した新聞



必要な情報を記録したメモ

日常の活動や学校行事の中で、目的や相手意識をもって書く。
（例）学級目標・学年目標・案内表示・プログラム・垂れ幕・看板・応援旗など

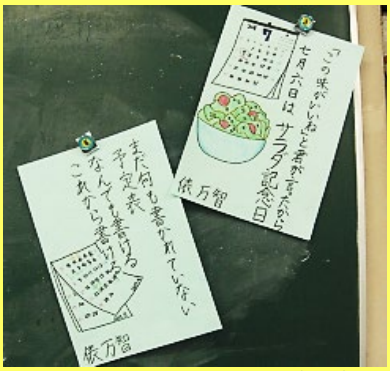
学校行事・校外学習など、様々な場面で言葉を選び、目的に合わせて書く。
（例）議事録・会議メモ・卒業文集・表紙など

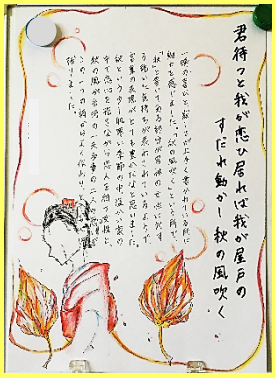
2. カリキュラムの工夫

年間での書写の時数を確かめ、確実に実施し、国語の授業とリンクさせた書写活動を取り入れるなど、カリキュラムを工夫することも可能です。俳句を書いたり、ことわざを調べてまとめたり、書写の力を生かす場面を設定することもできます。

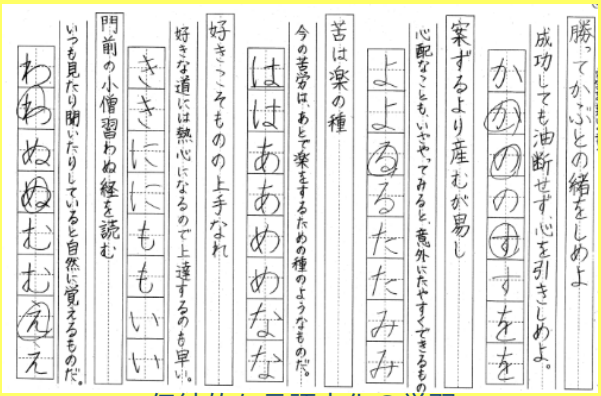
＜書写の力を生かす場面の例＞
・授業中のノート　行書の特徴をとらえて速く正確に書く。
・聞き取りメモ　必要な情報を的確に速く書き留める。
・古典　整った文字を書くことを心がけて視写する。
・詩 短歌 俳句　仮名との調和。字配りを考えて短冊や色紙などに書く。

授業中のノート





短歌・和歌の学習



伝統的な言語文化の学習

2. 書写の学習を生活に広げましょう

「書写」が生活に生きるためには、何を学習しているのかをとらえ、それを日常の各場面に活用することが大切です。書写の時間で学習したことを意識しながら書く活動を行うと、見やすく、整った文字や文章を書くことができます。

学習を発展させる

文字の組立て方（左右）

≪学習したこと≫　偏になると字の形が変わる。

文字の見本を作り、練習をします。

（例）　教科書体活字を拡大コピーする。必要に応じてさらに肉付けをする。

好 → 好

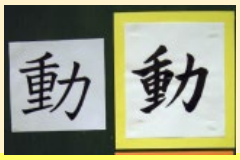
偏のつく他の字を探し、書きたい字を選びます。

健　好　仲

境　銅　相　など

学級や個人の目標・書き初めなどに応用できます。

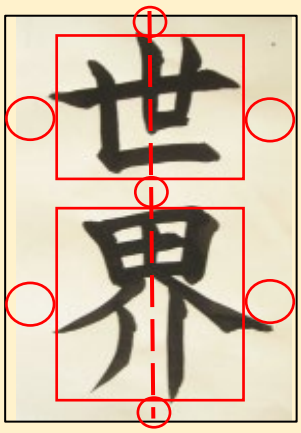
文字の見本作りができるようになると、活動が広がります。　（例）今年の目標を漢字で書く。



生活に広げる

字配りを知る（書き初めや標語など）手紙・カード・掲示物などに応用できます。

≪学習したこと≫
- ・文字の大きさ
- ・中心
- ・字間
- ・余白

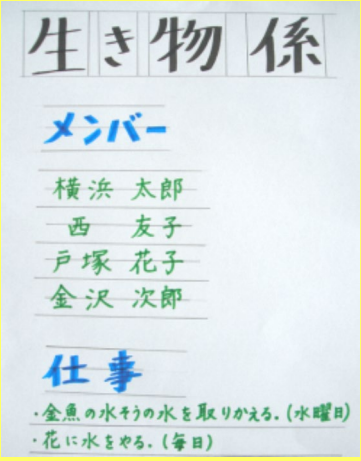


字間に気を付ける。

文字の大きさを変える。

文字の太さを変える。

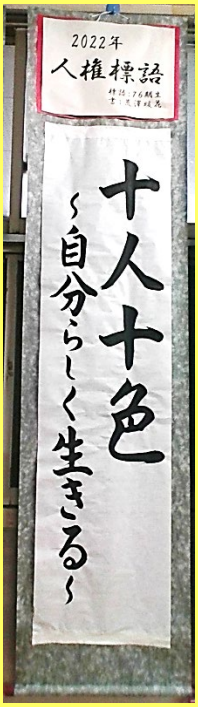
補助線を鉛筆で薄く引く。（中心線や外形など）



ポスター・掲示物

書き初め

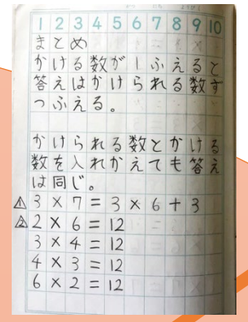
標　語

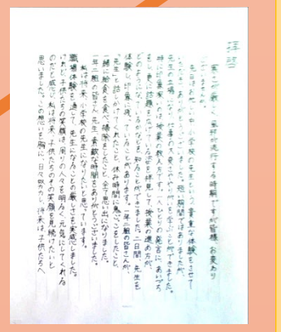


上下・左右の余白に気を付ける。

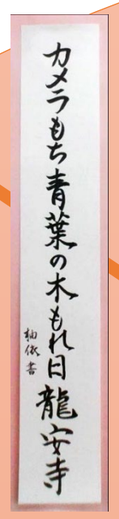
文字文化

学習活動

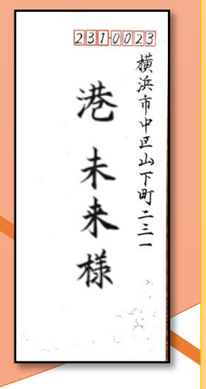




芸術



実生活



実用

校名表示

文字の歴史

甲骨

金文

小篆

説文

隷書

楷書
行書
草書

カタカナ

ひらがな

活字

字典・字書の歴史

現代の文字表現

書字の文化

姿勢・執筆法

表現の多様化

相手意識

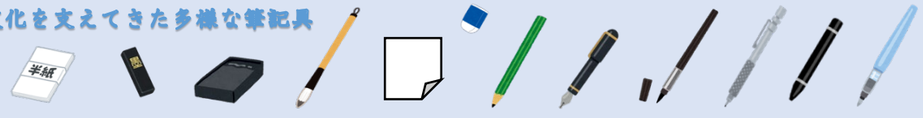
- 多くの人に伝える
- 身近な人に伝える

目的意識

- 速く正確に記録する
- 読みやすく記録する
- 分かりやすく整理する

次頁参照

文字文化を支えてきた多様な筆記具



活字媒体

相手・目的に合わせた文字表現の選択

伝達

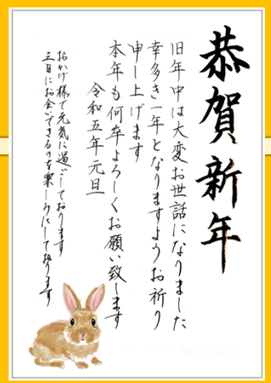
多くの人に伝える

黒板のめあて

ビラ・ポスター

ポップ

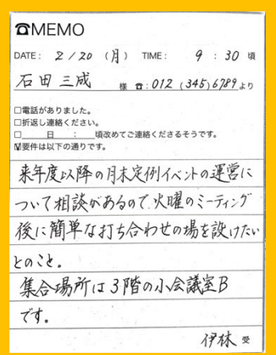
掲示板



招待状

身近な人に伝える

手紙



メッセージカード

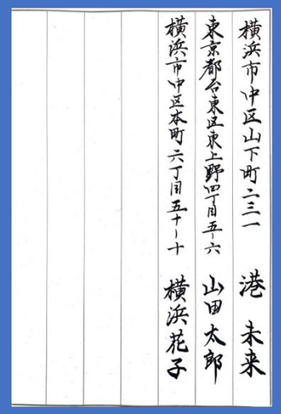
色紙の寄せ書き

記録

読みやすく・わかりやすく

日直の記録

黒板書記



学習ノート

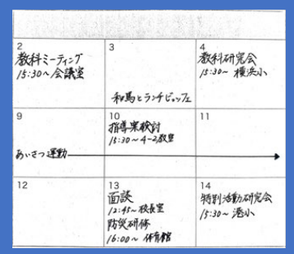
ファイルの背表紙

ワードマップ

速く・正確に

作文の
構成メモ

聞き取りメモ



文字は人々の生活の中で場面や目的、相手意識に合わせて、多様に発展してきました。その中には、ここに分類されない表現ももちろんあります。

書写　小学校 第１学年

＜目標＞

筆記具の持ち方を正しくして書く

＜身に付けさせたい書写の力＞

〔知識及び技能〕
筆記具の持ち方を正しくして書くこと。
〔主体的に学習に取り組む態度〕
積極的に筆記具の正しい持ち方を理解し、学習課題に沿っていろいろな線を書こうとすること。

授業の展開「えんぴつのもちかた」

スタートカリキュラムに位置づけ、15～20 分を毎日繰り返すことで定着を図ることも考えられます。

A 案

【学習活動と内容】

１　めあてを確認する。

えんぴつの　ただしい　もちかたを　しろう。

２　鉛筆の正しい持ち方、手を置く位置を知る。

・教科書の写真と自分の鉛筆の持ち方を比較し、違いを見つける。
・唱え歌を歌いながら、正しい鉛筆の持ち方を知る。

しせいと　もちかたの　となえうた

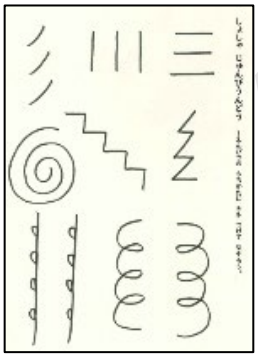
♪おなかと
せなかに
ぐう　ひとつ。
あしは　ぺったん
せなかは　ぴん！
えんぴつ　つまんで
なかゆび　まくら。
かみを　おさえて
さあ、かこう！

・正しい姿勢を確かめながら、鉛筆を持たない手の位置も確認する。

３　正しい持ち方で線をなぞったり書いたりする。

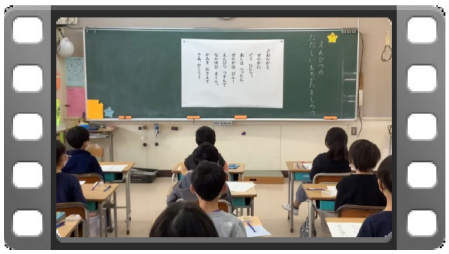
・ワークシートを用いて、縦の線や横の線、曲線や折れる線など、多様な動きを正しい持ち方で書く。

ワークシート例



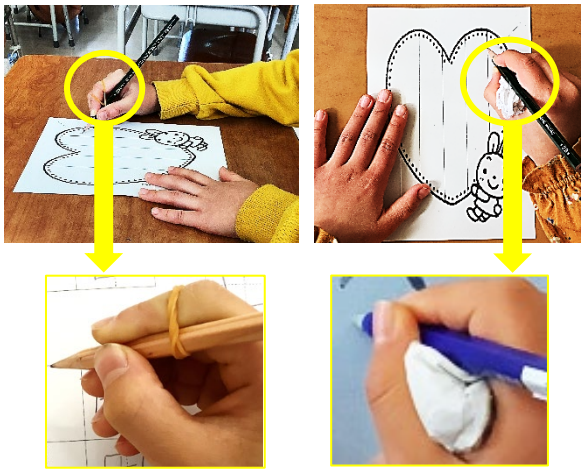
ワークシートを作成するときは、漢字や仮名に用いられる基本点画への展開を想定して、多様な線を取り入れるとよい。
多少はみ出しても良いので、正しい鉛筆の持ち方を維持して取り組めるようにする。
児童は、いろいろな線を書きながら、筆記具の正しい持ち方を確かめる。

【指導の手立てと評価規準】



（画面をクリック）

必要に応じて唱え歌のテンポを変えるなど、児童の実態に応じて確認しながら鉛筆をもつ。



筆記具を握り込んでしまうなど、支援が必要な児童には、輪ゴムやティッシュ等、身近なものを補助具として用いて支援すると効果的である。

〔知〕筆記具の持ち方を正しくして書いている。
〔主〕積極的に筆記具の正しい持ち方を理解し、学習課題に沿っていろいろな線を書こうとしている。

低学年では水書用筆を用いた運筆指導も行うとよい。☞→水書用筆を用いた指導事例

書写　小学校 第５学年

＜目標＞

① 「読む」

漢字や仮名の大きさに注意して書く

② 「飛行」

用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書く

〔国語や総合の学習に関連して〕

漢字と仮名の大きさ・配列に注意するとともに、目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書く

③ 「書き初め」

今までに学習した知識・技能を生かして書き初めを書く

＜身に付けさせたい書写の力＞

〔知識及び技能〕
① 漢字や仮名の大きさに注意して書くこと。
② 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。
③ 今までに学習した知識･技能を生かして書き初めを書くこと。

〔主体的に学習に取り組む態度〕
① 進んで漢字や仮名の大きさに注意し、学習課題に沿って書こうとすること。
② 進んで文字の大きさや配列について考え、学習課題に沿って書こうとすること。
③ 積極的に習得した知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして書こうとすること。

単元の展開（漢字とひらがなの大きさ･用紙に合った文字の大きさ／書き初め　６時間扱い）

【学習活動と内容】

１・２　漢字と仮名の大きさに気を付けて「読む」を書く。

- 漢字も仮名も同じ大きさで書かれたものと、大きさを区別して書いた教材を比較して読みやすさの違いに気付く。
- 文字教材に外形を書き足し、漢字と仮名の大きさの違いに気付く。
- ４年生で学習した漢字同士の大きさにもふれ、文字の画数による読みやすさの違いに気付く。
  →漢字に対して仮名はやや小さめに書く。

３・４　用紙に合った文字の大きさで「飛行」を書く。

- 大きさを様々に書き分けた文字教材を比較し、用紙に合った文字の大きさについて考える。
- 用紙の大きさと文字数の関係から、文字の大きさと配置の見当をつける。

目的に合った筆記具を選択し、ポスターなどを書く。

- 相手や目的を明確にし､用紙に合った文字の大きさを考えて書く。
- 様々な筆記具の特徴（材質・形状・色）について捉え、目的に合った筆記具を選択する。
- これまでに学習した文字の大きさや配列を意識して書く。

児童が主体的に思考する場面を設定する。

５・６　これまでに学習したことを生かして書き初めを書く。

- 漢字と仮名の大きさや用紙に合った文字の大きさに気を付けて書く。
- 自己の課題に応じて文字教材に外形などを書き足す。

【指導の手立てと評価規準】

文字教材に外形を書き足すことによって漢字と仮名の大きさの違いについて捉えられるようにする。

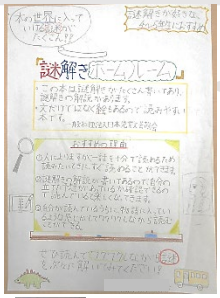
〔知〕漢字や仮名の大きさに注意して書いている。

〔主〕進んで漢字や仮名の大きさに注意し、学習課題に沿って書こうとしている。

〔知〕用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書いている。

〔主〕進んで文字の大きさや配列について考え学習課題に沿って書こうとしている。

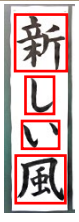
具体的な例を比較することで、用紙と文字の大きさの関係について捉えられるようにする。



国語や総合などの学習活動と関連させ、相手や目的が明確な活動を設定する。

〔知〕漢字と仮名の大きさ・配列に注意するとともに、目的に応じて筆記具を選び、その特徴を生かして書いている。

〔主〕積極的に文字の大きさ、配列、筆記具の使い分けなどを工夫して、学習の見通しをもって、読みやすく書こうとしている。



文字教材に外形を書き足すことによって漢字と仮名の大きさの違いについて捉えられるようにする。

〔知〕今までに学習した知識・技能を生かして書き初めを書いている。

〔主〕積極的に習得した知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして書こうとしている。

授業の展開（「用紙に合った文字の大きさ」　本時３・４／６時間）

B案

【学習活動と内容】

１　教材の確認
- 「飛行」を書くことを確認する。
- 空書きで「飛行」の筆順を確認する。

２　試し書き「飛行」
- 教科書の文字教材を見ずにワークシートに鉛筆で「飛行」を書く。
- 教科書の文字教材を見ずに半紙に毛筆で「飛行」を書く。

３　自己批正①
- 試し書きの文字を教科書と照らし合わせて、自分の課題となるところに赤鉛筆で記号や文字を入れる。

４　目標の把握
- 本時の学習のめあてについて話し合う。

> 用紙に合った文字の大きさを考えて書こう。

５　基準の把握
- 大きさを様々に書き分けた文字教材を比較し、用紙に合った文字の大きさについて考える。
- 半紙に漢字二文字を配置する際の適切な文字の大きさを捉える。

> 基準：用紙全体の大きさと文字数から、文字の大きさと配置を決める。

→試し書きを基にして、自分のめあてを立てる。
（本時のめあてに基づいて、自己の課題解決に必要なポイントを自分のめあてとする）

６　練習用紙を用いた課題解決
- 自分の課題に合った練習用紙を選択し、課題解決を図る。

７　練習
８　自己批正②
９　相互批正

> 必要に応じて改めて自己批正したり、グループで意見交流したりする。

１０　まとめ書き
- 本時のめあてを意識してまとめ書きをする。
- 毛筆で確かめたことを生かしてワークシートに鉛筆で書く。

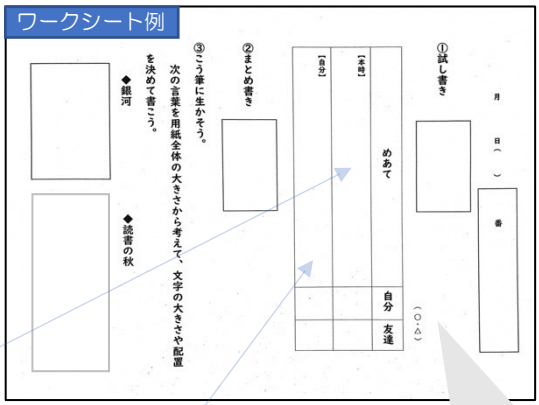
１１　自己評価・相互評価
- 試し書きとまとめ書きを比べて、自分のめあてを達成できたか確認する。
- 試し書きとまとめ書きを比べて、よくなったところを伝え合う。

１２　硬筆への発展
- いろいろな大きさの用紙に書く場面を想定し、用紙と文字の大きさについて考えたり、実際に書いたりする。

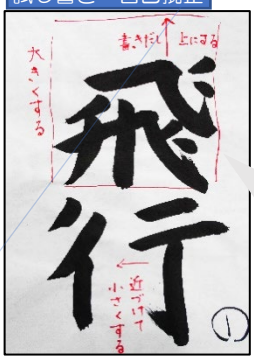
１３　本時のまとめ
- 学習の過程とそれによる成果を振り返り、次の学習に生かす。

【指導の手立てと評価規準】

ワークシート例



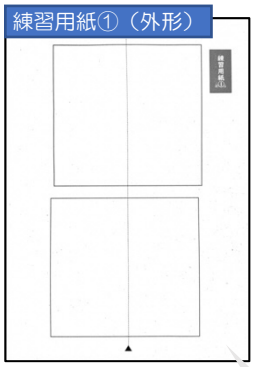
試し書き・自己批正



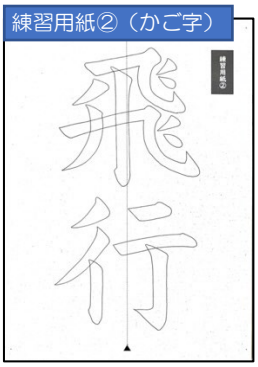
試し書きからまとめ書き、そして硬筆への発展まで、学習の見通しが捉えられるワークシートを用意する。

自己批正を行う際は基準を明確にし、本時の学習のめあてがぶれないよう支援する。
自己批正を通して児童が「自分のめあて」を立てられるように声掛けする。

練習用紙①（外形）



練習用紙②（かご字）



まとめ書き

外形やかご字等、文字の大きさが明確になる練習用紙を用意し、児童が自分の課題に合わせて練習用紙を選択できるようにする。

児童は基本点画の形や墨のにじみ・かすれなどに意識が傾きやすいので、自己評価・相互評価を行う際も基準を明確にしながら評価できるように声掛けする。

〔知〕用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書いている。
〔主〕進んで文字の大きさや配列を工夫しながら、学習課題に沿って「飛行」を書こうとしている。
【行動の観察、ワークシートの分析】

書写　中学校 第２学年

＜目標＞

行書と仮名の調和を意識して書く

〇行書と仮名を調和させるために、筆脈を意識して、次の画や文字につなげるように書く。
〇筆使い、字形、組立て、配列等、これまでの学習内容を想起したり、確かめたりして学習を進める。

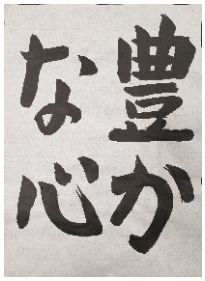
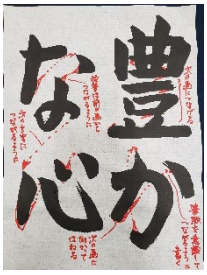
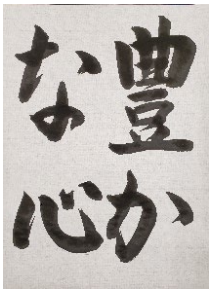
☆日常生活の書く場面と毛筆とを切り離さないためにも、硬筆に始まり、硬筆に還元する。

＜身に付けさせたい書写の力＞

〔知識及び技能〕
漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

〔主体的に学習に取り組む態度〕
漢字の行書とそれに調和した仮名の特徴を理解し、その特徴を漢字仮名交じりの文に生かして読みやすく速く書こうとすること。

単元の展開（「行書と仮名の調和」３時間）「豊かな心」

【学習活動と内容】	【指導の手立てと評価規準】
1　学習に見通しをもつ。 【硬筆】「楷書」で書かれた文字教材を設定時間で書き上げる。 ・自分の試し書きと、教科書等の「行書」で書かれた文字教材とを比較し、気付いたことをワークシートにまとめる。 【毛筆】「豊かな心」を書く。（試し書き） ・既習事項を生かして「豊かな心」を設定時間で書き上げる。 ・自分の試し書きと教科書等の「行書」で書かれた文字教材とを比較し、気付いたことを全体で共有し、教材に書き込む。 **2　前時の試し書きや学習内容をもとに、漢字の行書とそれに調和する仮名の特徴を確認する。** 【毛筆】「豊かな心」の課題①に取り組む。 ・文字の中の筆脈だけでなく、字間の筆脈にも注意し、仮名については行書に調和する筆使いを意識して練習する。 （例：始筆は滑らかに入る・終筆の形の変化） ・課題の達成度を自己評価（批正）し、さらに練習を重ねる。 【毛筆】「豊かな心」の課題②に取り組む。 ・読みやすく速く書くために、中心線や文字の大小を意識して練習する。 ・全体の調和を意識してまとめ書きをする。 ・課題の達成度を相互評価（批正）する。 ・前時の試し書きと本時で書いたものを比較し、目標の達成度を確認する。 【毛筆】「豊かな心」のまとめ書きをする。 ・前時の自己批正や相互批正を生かし、読みやすく速く書くことを意識してまとめ書きをする。 【硬筆】「行書」で書かれた文字教材を設定時間で書き上げる。 ・単元のはじめに硬筆で書いた文字と比較してどのような変化が見られたかをワークシートにまとめる。 **3　学習を振り返る。** ・自己の変容や単元の学習活動を通して身に付けたことを確認し、活用の場を考える。	日常で速く書く場面や読みやすい文字について考え、単元の目標に沿って自分の目標を設定するように促す。 硬筆で書く中で、行書の筆使いや配列の特徴について確認する。   課題①：書き方の調和（字間の筆脈、筆使い） 課題②：配列の調和　（中心線、文字の大小）  課題解決までのプロセス（授業で書いた試し書きやまとめ書き）を写真データに残すことで、生徒は自己の変容をみとることができる。 アプリ機能を使って写真を共有し、相互批正することもできる。 〔知〕 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書いている。【まとめ書きの分析】 〔主〕 課題解決に向けて思考する姿や、解決に向けて取り組んだ内容を自己の変容にふれながら具体的な言葉で記述しようとしている。【ワークシートの記述の分析】

書写指導サポートブック　～横浜の書写指導～

令和５年７月27日（ウェブページ掲載）

編　集　　令和3・4年度　書写指導サポートブック改訂委員会
発　行　　横浜市教育センター（横浜市教育委員会事務局）

〒231-001　横浜市中区本町 6-50-10
Tel: 045-671-3265

「書写指導サポートブック～横浜の書写指導～」の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、改竄することのないようにお願いいたします。

令和3・4年度書写指導サポートブック改訂委員会

監　修

横浜国立大学 教育学部　教授　青山 浩之

委　員

富士見台小学校	校　長	山本 加奈代
稲荷台小学校	教　諭	板橋 美智恵
浅間台小学校	主幹教諭	松永 奈津樹
今宿小学校	教　諭	二瓶　和馬
日野小学校	教　諭	永松　真紀
茅ケ崎小学校	教　諭	佐々木　真理
並木第一小学校	教　諭	坂田　未来
六浦中学校	主幹教諭	宍倉 美佐
みたけ台中学校	主幹教諭	三宅　恵美
深谷中学校	教　諭	杉山　梓
万騎が原中学校	教　諭	梅澤　碧
みなと総合高等学校	教　諭	伊林　賢一

（令和３年度の委員を掲載しています）